

令和4年度

年報・臨床研究業績集

独立行政法人 横浜医療センター
国立病院機構

はじめに



令和4年度(2022年度)の「年報・臨床研究業績集」の刊行にあたり、ひとこと述べさせていただきます。

令和2年度からの新型コロナウイルス感染症のために、当院は社会とともに困難な時期を過ごしました。コロナの波は幾度となく襲いかかり、そのたびに地域住民の皆様の健康や生活を脅かしました。当院はコロナ禍当初より、コロナ診療と通常診療の両立を掲げ、地域の医療機関、行政の皆様にご協力、連携を仰ぎながら、コロナ感染症に対して積極的な対応に努めてまいりましたが、正直なところ苦難の連続でした。しかし対峙の経験を活かして徐々に対応できるようになりました。当院はコロナ禍のなかでも「コロナ診療と通常診療の両立」で地域医療に貢献してきたと自負しております。

本「年報・臨床研究業績集」にて、苦労を重ねながらの各部門の診療実績をぜひご覧いただきたいと存じます。

提供する医療の質の維持、向上には、診療部のみならず看護部や他部門でも、新しい知見の情報共有、活用と各部門での臨床研究が必要です。この「年報・臨床研究業績集」では各部門の研究業績も掲載しております。診療実績とあわせてご覧いただきたく存じます。また、当院は新型コロナウイルス感染症に対する新薬の臨床試験(治験)に参加したこともお伝えしたいと思います。

当院は今後も地域住民の健康の維持、増進に貢献すべく、提供する医療の質の向上をはかります。ご支援、ご指導、ご協力を賜りますようお願いいたします。

(独) 国立病院機構横浜医療センター 院長 宇治原 誠

目 次

1. はじめに	院長 宇治原 誠
2. 施設の概況	1
3. 初期臨床研修の概要	7
4. 令和4年度部門別研究実績	
① 糖尿病内分泌内科	10
② 感染症内科	15
③ 膠原病・リウマチ内科	16
④ 精神科	19
⑤ 脳神経内科	20
⑥ 呼吸器内科	23
⑦ 消化器内科	27
⑧ 循環器内科	32
⑨ 腎臓内科	36
⑩ 小児科	37
⑪ 産婦人科	41
⑫ 放射線科（治療・診断）	45
⑬ 臨床検査科（医師）	46
⑭ 救急科	47
⑮ 外科	51
⑯ 呼吸器外科	53
⑰ 整形外科	54
⑱ 形成外科	56
⑲ 脳神経外科	57
⑳ 心臓血管外科	61
㉑ 皮膚科	61
㉒ 泌尿器科	62
㉓ 眼科	63
㉔ 歯科口腔外科	64
㉕ 耳鼻咽喉科	66
㉖ 麻酔科	67
㉗ 緩和ケア内科	68
㉘ 臨床研究部（治験管理室）	69
㉙ 薬剤部	70
㉚ 放射線診療部（技師）	73

③①	臨床検査科（技師）	・ ・ ・ ・ ・	7 4
③②	集中管理部（ME）	・ ・ ・ ・ ・	7 5
③③	栄養管理室	・ ・ ・ ・ ・	7 6
③④	リハビリテーション	・ ・ ・ ・ ・	7 7
③⑤	看護部	・ ・ ・ ・ ・	7 8
③⑥	看護学校	・ ・ ・ ・ ・	7 9
③⑦	相談支援センター（MSW）	・ ・ ・ ・ ・	8 0
③⑧	事務部	・ ・ ・ ・ ・	8 1

5 あとがき

臨床研究部長 井畑 淳

施設の概況



1. 沿革

- | | | |
|------|----------|---|
| (1) | 昭和18年 6月 | 戸塚海軍病院として創設 |
| (2) | 昭和20年12月 | 国立戸塚病院として発足(厚生省へ移管) |
| (3) | 昭和24年 1月 | 国立横浜病院と名称変更 |
| (4) | 昭和57年 8月 | 救命救急センター運営開始 |
| (5) | 平成 9年 1月 | エイズ拠点病院として受入開始 |
| (6) | 平成15年 3月 | 国立横浜病院と国立横浜東病院を、国立横浜病院の地において統合し、国立病院横浜医療センターとして発足 |
| | 平成15年 3月 | 災害医療拠点病院として認定 |
| (7) | 平成16年 4月 | 国立病院・療養所の独立行政法人化に伴い、独立行政法人国立病院機構 横浜医療センターに名称変更 |
| (8) | 平成19年 9月 | 地域医療支援病院として認定 |
| (9) | 平成20年 7月 | 着工開始 |
| (10) | 平成22年 1月 | 竣工 |
| (11) | 平成22年 3月 | 開院式 |
| (12) | 平成22年 4月 | 新病院オープン |
| | | 横浜市南西部地域中核病院として位置付 |
| | | 地域周産期母子医療センターとして認定 |
| (13) | 平成23年 4月 | 日本医療機能評価機構(Ver6. 0)認定 |
| (14) | 平成25年 2月 | 神奈川DMAT指定病院として指定 |
| (15) | 平成25年 4月 | 神奈川県がん診療連携指定病院 |
| (16) | 平成28年 4月 | 日本医療機能評価機構認定更新(一般病院2) |
| (17) | 平成29年 3月 | 神奈川 DMAT-L 指定病院として指定 |
| (18) | 令和 2年 8月 | 特定行為研修指定研修機関として指定(術中麻酔管理領域) |
| (19) | 令和 4年 2月 | 日本医療機能評価機構認定更新(初回認定平成18年4月)(一般病院2 3rdG:Ver2. 0) |
| | | 日本医療機能評価機構認定(救急医療・災害時の医療 Ver1. 0) |
| (20) | 令和 5年 6月 | 血液浄化センター開設 |

2. 環 境

横浜市南西部に位置し、南に湘南の景勝地鎌倉・江ノ島・逗子海岸をひかえ、西に富士箱根の連山を眺望し、東海道松並木道(国道一号線)北側の海拔約50mの高台にある。横浜市と近隣各市を結ぶ交通の要所に位置する関係上、交通も便利である。また、周囲は湘南の一大住宅地である。

3. 土 地 ・ 建 物

① 土 地	61,651.79㎡	② 建 物	12,440.78㎡
③ 階 数	地上7階	④ 建物延面積	40,188.62㎡

4. 病 床 規 模

医 療 法 490床 (一般470・精神20) (二次医療圏:横浜西部)

5. 診療科名 (3 3 科)

内科、腎臓内科、糖尿病内分泌科、心療内科、精神科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、緩和ケア内科、アレルギー科、膠原病・リウマチ内科、感染症内科、小児科、外科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科、救急科、病理診断科、

6. 診療機能の特色と運営方針診療機能の特色と運営方針

当センターは、①人権を尊重し、思いやりの心をもって、安全で納得していただける患者中心の医療、②急性期の地域医療を基盤として、質の高い総合的な専門医療を提供するとともに、関係医療機関と密接な連携をもつ地域完結型医療を目指しつつ、③健全な病院経営を心がけ、患者の皆様がより良い医療が受けられ、地域で選ばれる病院になるべく日々努力していくことを理念としている。

救急・専門医療以外にも臨床研究や情報発信、併設する看護学校での看護師養成や医療関係への教育など国立病院機構病院に課せられている使命の実践を果たしていく。

また、横浜市南西部地域中核病院となる地域医療支援病院で①救命救急医療 ②初期・二次救急医療(内科・外科系・小児の二次急患患者)③周産期医療(地域周産期医療センター)④精神科合併症医療 ⑤災害医療拠点病院 ⑥エイズ医療(エイズ医療拠点病院)⑦病院機能評価の受審及び認証の取得している。

(1) 救命救急センター

昭和57年8月から運営を開始し、主として脳卒中・頭部外傷・心筋梗塞・急性腹症等の救命医療を行っている。なお、地域救急隊との定期的な会議の開催や救急救命士の研修受入を行うとともに神奈川県及び横浜市から救急情報センターにおける救急救命士の指導医の派遣協力要請を受けて、専門医師の派遣を行っている。平成29年4月からは、ドクターカーの運用を開始し、令和3年7月からは救急車型ドクターカーの運用も開始している。

また、臓器提供施設としても指定されている。

※ 臓器提供実績

2016年	脳死下臓器提供	1件
2017年	心停止下臓器提供	1件
	脳死下臓器提供	1件
2018年	脳死下臓器提供	1件
2021年	脳死下臓器提供	1件

(2) 母子医療センター

昭和60年に母子医療センターを開設し、平成22年4月からは、「地域周産期母子医療センター」として認定され、母体搬送を含めハイリスク及び新生児の受け入れを行っている。NICU9床の施設基準を取得。

(3) エイズ拠点病院

平成9年1月からは、エイズ拠点病院としての受入を行っている。

(4) 専門外来等

外来部門ではがん化学療法外来、補聴器外来、スキンケア外来、母乳外来、育児相談、脳神経血管内治療外来等各診療科の特色を活かした専門外来がある。さらに横浜市医師会との連携により地域医療連携システムに参加し、地域の開業医や病院との協力医療を行い、内分泌(院内ではDMケアユニット)、循環器医療の地域医療NWを発足させ診療の棲み分け、情報発信を行っている。また、医師会との懇談会を開催し病院運営について意見交換を行っている。平成10年4月から院外処方箋の発行による医薬分業に取り組んでいる。発行率は90%強を維持しており、薬剤管理指導業務などの充実に努めている。

(5) 臨床研究部

平成2年に創設された臨床研究部は1部5室の臨床疫学・病態研究室、病理・免疫研究室、生化学・遺伝子研究室、画像・情報解析研究室、治験管理室からなり、消化器科領域の肝・胆・膵疾患等、特に難治性肝疾患の研究を進めてきているほか、各診療科の様々な疾患の研究に取り組んでいる。さらに臨床部門との連携を図り活性化に努めている。

(6) 地域医療連携部

平成13年6月に地域医療連携室を開設して地域医療機関等との連携を図っている。

平成19年9月26日付で地域医療支援病院としての名称使用承認を得た。

平成31年1月に地域医療連携部として組織変更を行った。

7. 教育・研修(研修指導施設の指定学会一覧は8頁のとおり)

① 臨床研修指定病院(昭和45年4月)の指定を受け、当院の特色を生かした研修を行ってきたが、従来は大学からのストレート研修が主体であった。平成16年から卒業研修が必修化されたのを機会に、マッチングシステムに参加し、全国公募で研修医を募集している。1学年の定員を8名とし、横浜国立大学附属病院、山梨大学附属病院からのいわゆるたすきがけ研修医も受け入れている。

② 当院には附属看護学校が附置されている。看護学校は、昭和38年9月1日国立横浜病院附属高等看護学院(修業年限3年定員1学年40名)として発足した。

昭和45年4月から入学定員が45名となり、昭和50年4月に看護学校と名称変更された。

平成7年3月卒業生より専門士(医療専門課程)の称号が付与された。

平成15年3月1日国立病院横浜医療センター附属看護学校と名称変更された。

平成16年4月1日独立行政法人国立病院機構横浜医療センター附属看護学校と名称変更された。

平成19年4月1日入学定員が1学年80名となった。併せて独立行政法人国立病院機構横浜医療センター附属横浜看護学校と名称変更された。

平成26年3月31日文科科学大臣より職業実践専門課程として認定された。

③ 医療専門職の実習受け入れ(看護部、薬剤部、臨床検査科、放射線科、栄養管理室、リハビリテーション科、等)を毎年実施しており、地域の養成機関の要請に応えるとともに、救急救命士の再教育を受け入れている。

また、院内職員の研修にも力を入れ充実を図っている。

④ その他、次のような公開講座等を行っている。

ア、公開医療講座

イ、健康フェア

ウ、救急救命士研修会

エ、患者・家族研修会

8. 患者の状況

(1) 診療科別一日平均患者数

ア 入院

(単 位 : 人、日)

年 度 科 別	平成 30 年度		平成 31 年度		令和 2 年度		令和3年度		令和4年度	
	患者 数	平均 在院 日数	患者 数	平均 在院 日数	患者 数	平均 在院 日数	患者 数	平均 在院 日数	患者 数	平均 在院 日数
糖尿病内分泌内科	10.7	9.6	10.7	10.4	10.2	9.7	9.6	8.9	10.6	8.4
精神科	26.4	64.3	21.8	56.9	14.6	51.1	1.1	33.5	7.2	46.4
神経内科	32.5	22.7	27.3	18.5	27.9	18.7	29.3	19.6	24.7	16.4
呼吸器内科	20.0	11.1	18.5	9.6	17.0	11.0	15.7	9.8	22.3	26.0
消化器内科	41.7	8.7	40.7	8.1	34.4	7.4	33.8	6.8	36.8	7.6
循環器内科	33.8	6.7	35.7	7.0	35.3	6.9	37.3	7.3	35.0	7.4
膠原病・リウマチ内科	12.4	11.6	10.5	12.5	9.2	10.0	9.9	11.7	9.1	9.9
腎臓内科	4.8	15.7	8.8	13.0	6.2	14.0	4.5	11.2	4.7	12.0
小児科	25.7	6.7	25.6	6.7	15.6	6.8	20.2	7.0	19.5	6.3
外科	33.0	12.1	33.7	11.7	27.7	10.8	24.9	9.4	22.9	9.8
整形外科	45.3	18.7	42.8	17.7	38.3	16.6	41.4	18.9	39.9	18.3
形成外科	1.0	5.7	1.1	6.6	0.8	5.0	1.5	6.6	2.1	7.8
脳神経外科	41.5	17.3	39.1	14.9	36.0	15.1	36.4	14.2	31.8	13.1
心臓血管外科	10.4	13.2	11.3	11.6	9.5	9.7	9.6	12.0	9.6	12.8
呼吸器外科	5.2	10.8	4.1	10.8	5.5	11.0	4.1	9.3	4.3	9.2
皮膚科	5.5	11.2	4.8	12.8	4.7	12.8	3.8	9.6	2.6	12.7
泌尿器科	10.5	6.2	10.0	5.8	10.7	6.0	11.0	6.2	12.1	6.5

産婦人科	27.5	6.7	24.4	6.7	20.4	6.2	20.6	6.4	21.9	6.9
眼科	5.9	3.8	5.8	3.8	4.2	3.8	4.5	3.8	4.8	3.2
耳鼻咽喉科	2.4	6.2	3.3	5.7	1.9	5.2	2.0	5.2	1.5	4.8
歯科口腔外科	1.0	3.1	1.2	4.2	1.0	4.0	0.8	2.6	1.0	3.1
救急科	20.2	6.6	18.8	6.0	19.1	5.3	25.1	6.4	23.5	7.5
計	417.2	11.1	399.8	10.1	350.0	10.2	346.9	9.7	348.0	9.3

イ 外 来

(単 位 : 人)

年 度 科 別	平成 30 年度	平成 31 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
糖尿病内分泌内科	60.8	64.4	56.0	47.3	38.3
精神科	21.9	17.5	14.6	15.5	13.7
神経内科	29.6	29.4	28.4	30.7	28.2
呼吸器内科	35.0	42.0	40.0	40.9	40.4
消化器内科	73.4	72.5	66.9	74.1	75.3
循環器内科	59.3	54.5	44.0	46.0	48.6
膠原病・リウマチ内科	36.7	38.0	34.5	36.3	37.2
腎臓内科	12.3	14.3	15.4	13.8	12.5
小児科	60.7	61.4	48.2	50.9	53.5
外科	41.1	40.5	39.8	42.1	40.7
整形外科	85.8	80.3	69.3	69.4	69.9
形成外科	6.5	6.1	5.6	7.4	9.2
脳神経外科	22.7	25.0	26.3	26.4	26.4
心臓血管外科	10.0	6.1	11.8	11.5	13.7
呼吸器外科	7.2	11.8	7.1	7.3	8.2
皮膚科	37.7	34.0	29.2	28.3	24.1
泌尿器科	36.6	36.1	37.7	36.3	37.3
産婦人科	79.0	75.0	60.1	62.3	62.4
眼科	43.6	43.3	43.9	48.4	50.6

耳鼻咽喉科	18.4	18.8	16.6	17.1	17.7
放射線科	26.0	21.9	23.2	26.0	22.1
歯科口腔外科	29.0	33.1	30.6	34.2	32.8
麻酔科	8.7	4.2	6.7	7.4	7.6
救急科	5.6	4.5	4.3	5.7	5.2
計	847.8	834.8	760.3	785.5	775.3

(2) 母子医療センター取扱患者数

区 分 年 度	新生児数	分娩件数	ハイリスク妊婦 分 娩 件 数
平成 30 年度	3,373	809	446
平成 31 年度	2,569	732	451
令和 2 年度	2,205	574	426
令和 3 年度	2,224	599	453
令和 4 年度	1,931	524	340

(3) 救命救急センター疾病別新入院患者数

区 分 年 度	脳卒中	重症心疾患	頭部外傷	その他	合 計
平成 30 年度	260	247	116	1,090	1,713
平成 31 年度	258	225	130	1,019	1,632
令和 2 年度	250	217	126	988	1,581
令和 3 年度	231	201	117	915	1,464
令和 4 年度	241	162	95	887	1,385

(4) 剖 検 数 調

区 分 年 度	死 亡 数	剖 検 数	剖 検 率
平成 30 年度	516	13	2.5%
平成 31 年度	468	11	2.4%
令和 2 年度	468	7	1.5%
令和 3 年度	456	7	1.5%
令和 4 年度	480	8	1.6%

初期臨床研修の概要



臨床研修制度が平成 16 年度に開始して以来、当院では長く研修医の受け入れを行ってきています。当初の 5 名の定員から研修体制の充実が評価されたこともあり当院基幹プログラムでは現在 8 名の定員に、横浜市立大学附属病院、市民総合医療センターの 2 病院から合わせて 1 年目 4 名、2 年目 2 名、計 6 名が加わって 22 名の研修医数となりました。長く山梨大学から受け入れをしておりましたが、希望者がおらず例年より一人少ないことは少し寂しいものがありました。それでも、仲良く 22 名の初期研修医の先生方が日夜、診療と研鑽に励んでくれました。また、それを指導する指導医、上級医は数多く、熱心な指導が行われています。それに合わせ、研修希望者も日本全国から集まって 60 名を超え、当院の研修が全国区になったものとかんがえています。

しかしながら、COVID-19 パンデミックは研修に大きな影を落としました。当初の強毒株からの変化はあったにせよ、夜間、休日の救急外来当番は PPE を着用し、不便な診療を強いられる日々は変わることがありません。発熱などの一般的な症状であっても CT 撮影を先行せざるを得ない

事も多く、問診や身体診察を大事にすることを学ぶことが少し難しい、臨床推論も学びにくい様に思われました。もちろん、仲間で食事をしたり、楽しく談話したり、こんな些細なことも難しくなってしまう、それは残念に思います。

地域医療研修は奄美大島にある鹿児島県立大島病院に、長崎県平戸市の平戸市民病院も選べる形になったこともあって、戸塚では体験のできない離島や医療資源の限られた場所での総合診療に従事してもらうことができました。ドクターヘリ搭乗や、へき地診療所での研修、医師のいない離島の巡回診療も行い、大きな財産になったことと思います。

それらの経験を血肉として、臨床医として必要な基礎をきちんと身に着けた医師に育てるためには、研修内容も協力病院を含めて常にその内容を見直すことが必要と考えています。

当院の研修プログラム所属の2年目研修医は3月の判定会議で無事、全員の研修修了が確認され、正式な医師として後期研修プログラムに進むこととなりました。

なお、2021年度採用研修医名と進路は以下の通りです。

悦田 咲季子	横浜労災病院	消化器内科
大嶋 和海	横浜市立大学	小児科
北野 優斗	埼玉医科大学	形成外科
齊藤 淳	横浜市立大学	消化器科（横浜医療センター内科研修プログラム）
舘野 友里恵	横浜市立大学	腎臓内科（横浜医療センター内科研修プログラム）
松本 雪菜	横浜市立大学	救急医学科（横浜医療センター救急科研修プログラム）
南 晴菜	横浜市立大学	産婦人科
吉本 舞	神戸市立医療センター市民中央病院	脳神経外科

令和 4 年度部門別研究業績

糖尿病内分泌内科

糖尿病内分泌内科は、糖尿病および内分泌代謝性疾患における地域医療連携への貢献を第一に考え、診療にあたっております。糖尿病診療については、看護部、薬剤部、栄養管理室、臨床検査科、リハビリテーション科とともに、多職種により結成された「糖尿病チームケアユニット」を編成し、標準化されたプログラムで糖尿病チーム医療を行っております。2020 年度より、糖尿病教育入院プログラムに、感情負担度を評価する質問票を取り入れるなど、患者さんの心理的側面からアプローチできる療養指導を目指しております。また、地域における糖尿病治療の平準化に貢献できるよう、2004 年以降、循環型の糖尿病地域連携バスを運用しています。糖尿病治療に貢献できるよう、臨床データを提供することを目指し、糖尿病の臨床研究を開始しております。今後とも、診療および研究面で地域の先生方にお役立て頂けるよう、努力致します。



論文、総説

- 1) Ikeda K, Tajima K, Tanabe Y, Poon AS, Kajimura S, Activation of UCP1-Independent Ca²⁺ Cycling Thermogenesis by Wireless Optogenetics, Methods in Molecular Biology (2448,131-139), 2022/Feb
- 2) Wang Q, Li H, Tajima K, Verkerke ARP, Taxin ZH, Hou Z, Cole JB, Li F, Wong J, Abe I, Pradhan RN, Yamamuro T, Yoneshiro T, Hirschhorn JN, Kajimura S, Post-translational control of beige fat biogenesis by PRDM16 stabilization, Nature(609,7225,151-158), 2022/Aug
- 3) 宇治原 誠、DPC 対象病院の医業収益を日々収集可能な 6 つの変数で推定する式の作成、日本医療マネジメント学会雑誌(23,4,205-209) 2023/3/1
- 4) 高橋 麻侑子、田島 一樹、寺内 康夫、ガイドラインにないリアル糖尿病薬物療法をガイドする、新興医学出版社 142-147 2022/11/15

学会・研究会発表

- 1) 田島 一樹、高橋 麻侑子、末園 太一、中川 広美、宇治原 誠、当院における糖尿病地域連携クリティカルパスを用いた患者の血糖管理状況について、第 65 回日本糖尿病学会年次学術総会 2022.5.12-5.14
- 2) 高橋 麻侑子、田島 一樹、末園 太一、奥田 美加、宇治原 誠、2 型糖尿病合併妊娠における分娩前後でのインスリン必要量に関する検討、第 65 回日本糖尿病学会年次学術総会 2022.5.12-5.14
- 3) 大橋 海音、川井 萌加、白井 明日香、重松 絵理奈、阿部 梨苑、安西 未都希、鎌田 真央、上戸 遥、佐久間 亜実、辰弥 京音、町田 みちる、宮田 葵、渡辺 夏希、長谷川 輝美、近藤 奈々絵、大村 正史、高橋 君子、中谷 弥栄子、廣田 耕志、親泊 政一、田島 一樹、宇治原 誠、伊藤 太二、高 LDL コレステロール血症特異的血中分泌型 miRNA の標的遺伝子予測と Gene Ontology (GO) 解析、及び関連疾患との相関解析、第 65 回日本糖尿病学会年次学術総会 2022.5.12-5.14
- 4) 大橋 海音、辰弥 京音、白井 明日香、川井 萌加、阿部 梨苑、安西 未都希、鎌田 真央、上戸 遥、佐久間 亜実、町田 みちる、宮田 葵、渡辺 夏希、長谷川 輝美、大村 正史、廣田 耕志、親泊 政一、重松 絵理奈、田島 一樹、宇治原 誠、伊藤 太二、インスリン抵抗性特異的に発現変動する血中分泌型 miRNA の統合的解析、及び関連疾患との相関解析、第 95 回日本内分泌学会学術総会 2022.6.2-6.4
- 5) 尾崎 光一、中井 一貴、渡邊 一樹、入江 航生、新保 香織、土屋 美帆、檀割 拓平、洲之内 堯、廣瀬 玲、鶴谷 悠也、斎藤 淳、超選択的副腎静脈サンプリングから数日後に両側副腎出血を来し、副腎皮質機能低下症に至った一例、第 95 回日本内分泌学会学術総会 2022.6.2-6.4

- 6) 川井 萌加、辰弥 京音、大橋 海音、白井 明日香、重松 絵理奈、阿部 梨苑、安西 未都希、鎌田真央、上戸 遥、佐久間 亜実、町田みちる、宮田 葵、渡辺 夏希、近藤 奈々絵、大村 正史、廣田 耕志、親泊 政一、田島 一樹、宇治原 誠、伊藤 太二、高 LDL コレステロール血症特異的血中分泌型 miRNA は、メタボロームを変動させ、広範な関連疾患発症にも関与することが予測される～標的遺伝子予測と Gene Ontology (GO) 解析～、第 76 回日本栄養・食糧学会大会 2022.6.10-6.12
- 7) 渡邊 清太郎、田島 一樹、高橋 麻侑子、末園 太一、宇治原 誠、全身倦怠感を主訴に来院し、好酸球増多を契機に診断された ACTH 単独欠損症の 1 例、第 679 回日本内科学会関東地方会 2022.7.10
- 8) 竹田 智香、田島 一樹、渡邊 清太郎、尾崎 光一、高橋 麻侑子、王城 人志、柿添 学、平井 耕太郎、宇治原 誠、術前検査で副腎性クッシング症候群の合併が判明し、大腸癌との同時摘出術が施行された一例、第 680 回日本内科学会関東地方会 2022.9.24
- 9) 渡邊 清太郎、田島 一樹、尾崎 光一、高橋 麻侑子、王城 人志、平井 耕太郎、宇治原 誠、膿瘍ドレナージによる反応性胸水貯留の速やかな改善を確認し得た、未治療 2 型糖尿病に合併した後腹膜膿瘍の一例、第 37 回日本糖尿病合併症学会 2022.10.21-10.22
- 10) 木下 琢也、田島 一樹、渡邊 清太郎、尾崎 光一、高橋 麻侑子、王城 人志、宇治原 誠、抗 GAD 抗体陽性を呈した劇症 1 型糖尿病の一例、第 681 回日本内科学会関東地方会 2022.10.22
- 11) 高橋 麻侑子、田島 一樹、尾崎 光一、宇治原 誠、2 型糖尿病としてインスリン導入後、早期に抗 GAD 抗体が陽転化した一例、第 32 回臨床内分泌代謝 Update 2021.11.11～11.12
- 12) 室橋 祐子、田島 一樹、戸田 宗治、松下 啓、岩崎 博幸、食道背側に存在した異所性副甲状腺腫による原発性副甲状腺機能亢進症の一例、第 32 回臨床内分泌代謝 Update 2021.11.11～11.12
- 13) 渡邊 清太郎、田島 一樹、尾崎 光一、高橋 麻侑子、王城 人志、宇治原 誠、抗 GAD 抗体陽性であった劇症 1 型糖尿病の一例、第 60 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会 2023.1.28-1.29
- 14) 水野 航樹、田島 一樹、渡邊 清太郎、尾崎 光一、高橋 麻侑子、王城 人志、鈴木 幸二、宇治原 誠、ラトケ嚢胞による汎下垂体機能低下症を呈したが、外科治療後、前葉機能の改善を認めた一例、第 684 回日本内科学会関東地方会 2023.2.12

講演

- 1) 田島 一樹、NAFLD/NASH 合併 2 型糖尿病の治療～SGLT2 阻害薬の有用性について～、Diabetes Web Conference 2022.4.8 横浜
- 2) 田島 一樹、糖尿病専門医から見た ARNI の期待、世界高血圧デーにエンレストを考える 2022.5.17 横浜

- 3) 田島 一樹、2 型糖尿病合併高 TG 血症患者に対するペマフィブラートの使用経験、第 9 回糖尿病 Expert Meeting 2022.6.23 横浜
- 4) 田島 一樹、糖尿病診療における SGLT2 阻害薬の多面的有用性～新規治療標的として期待される褐色脂肪の話題も含めて～、Kowa Web Conference 2022.6.24 札幌
- 5) 田島 一樹、GLP-1 受容体作動薬を用いた糖尿病治療～経口セマグルチドへの期待～、GLP-1 Web 講演会 2022.9.7 横浜
- 6) 田島 一樹、糖尿病地域医療における当院教育入院の役割～悪性腫瘍検索データも含めて～、横浜南西部 Diabetes Web Seminar 2022.9.15
- 7) 田島 一樹、糖尿病合併高血圧患者におけるエンレストへの期待、第 2 回高血圧 Forum 2022.9.21 横浜
- 8) 田島 一樹、糖尿病患者さんの QOL を意識した治療を目指して、Diabetes Online Seminar 2022.9.28 横浜
- 9) 高橋 麻侑子、2 型糖尿病合併高 TG 血症患者に対するペマフィブラートの使用経験、Kowa Web Conference 2022.10.6 横浜
- 10) 田島 一樹、GLP-1 受容体作動薬を用いた糖尿病治療～経口セマグルチドへの期待～、糖尿病医療連携の会 2022.11.22 横浜
- 11) 田島 一樹、糖尿病チーム医療の取り組み～糖尿病透析予防外来について～、横浜南西部糖尿病・腎疾患フォーラム～シリーズ②: 腎疾患編～ 2022.12.13 横浜
- 12) 田島 一樹、NAFLD/NASH 合併 2 型糖尿病の治療～SGLT2 阻害薬の有用性について～、Kanagawa Diabetes Conference 2022.12.21 東京
- 13) 田島 一樹、NAFLD/NASH 合併 2 型糖尿病の治療～SGLT2 阻害薬の有用性について～、青葉肝臓セミナー 2023.1.19 横浜
- 14) 田島 一樹、GLP-1 受容体作動薬を用いた糖尿病治療～経口セマグルチドへの期待～、GLP-1 Web 講演会 2023.2.15 横浜
- 15) 田島 一樹、糖尿病患者さんの QOL を意識した治療を目指して、DUAL Seminar in 横浜 2023.2.20 横浜
- 16) 田島 一樹、糖尿病患者さんの QOL を意識した治療を目指して、戸塚区薬剤師会学術講演会 2023.3.17 横浜

ファシリテーター

- 1) 田島 一樹
神奈川代謝・内分泌領域 高血圧×心不全講演会横浜南会場分科会 2023.1.23 横浜

総合司会

1) 宇治原 誠

横浜下垂体疾患セミナー2023 2023.2.1 横浜

座長

1) 宇治原 誠

Diabetes Web Conference 2022.4.8 横浜

2) 田島 一樹

トルリシティ Web conference 2022.4.27

3) 宇治原 誠

第9回糖尿病 Expert Meeting 2022.6.23 横浜

4) 田島 一樹

Insulin Online Seminar 2022.8.5 横浜

5) 田島 一樹

高齢者糖尿病セミナー～関連する疾患もふまえて～ 2022.8.23 横浜

6) 田島 一樹

トルリシティ Web conference 2022.9.1 横浜

7) 宇治原 誠

横浜南西部 Diabetes Web Seminar 2022.9.15

8) 宇治原 誠

第2回高血圧 Forum 2022.9.21 横浜

9) 田島 一樹

Kowa Web Conference 2022.10.6 横浜

10) 宇治原 誠

Diabetes Online Conference 2022.10.28 横浜

11) 宇治原 誠

糖尿病医療連携の会 2022.11.22 横浜

12) 宇治原 誠

Diamond Seminar in Kanagawa 2023.2.8 横浜

13) 田島 一樹

Diamond Seminar in Kanagawa 2023.2.8 横浜

感染症内科

AST（Antimicrobial Stewardship Team）は医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師かならなるチームで、外勤の感染症専門医を中心に毎週火曜日の午後に活動しています。

2023 年から感染症内科として救急科所属の感染症専門医が兼任で配属となり、対応が必要な状況に対して適宜介入を行っております。

また、一般外来での抗菌薬適正使用に関しても 2023 年度より積極的に介入を行っております。現時点では院外から感染症の症例を積極的にご紹介いただける状態ではありませんが、院内で感染症関連のご相談がございましたらいつでもお気軽にご相談ください。

気軽にご相談いただける環境の構築を目指していく所存です。

業績

なし

膠原病・リウマチ内科

膠原病・リウマチ内科は現在スタッフ2人と専攻医3人の5人体制で外来・入院診療を行っています。神奈川県内では大学病院を除けば多い方になり恵まれた環境だと思います。

周りの地区には膠原病を専門とする施設は少なく、スタッフが多い施設もあまりないため、入院診療が可能な我々が地域の中核病院として膠原病診療を通じて少しでも地域の先生方のお役に立てればと考えています。

地域連携という面では、新患・紹介患者ワクを毎日設けることで「いつでも相談できる」環境づくりを行っています。

また、ハイリスク妊娠に対応してくださる産科の先生方がいらっしゃるので、横浜市内では初めて母性内科外来(リウマチ)を開設しました。外来日は妊婦さんや相談にいらっしゃる方の利便性を考え火曜日を除いた毎日にし、可能な限り病院での滞在が短くなるよう優先的に診療をさせていただいています。こじんまりとやっていますが、毎年6-8名の患者さんの妊娠・出産のお手伝いをさせていただいています。

NHOにおいては臨床だけでなく研究も大事な柱のひとつですのでネットワーク研究やEBM研究も行っています。特に日本で最も大きな関節リウマチデータベースであるNinJaに当科も協力しており、データ収集を毎年行いながら研究の提案を行っています。また、努力した結果、外部からの治験依頼も途切れることなく続いています。

ただ忙しいばかりではスタッフが疲弊してしまいますのでリフレッシュ休暇や有給取得など「働き方改革」をもう少し進めていければよいなと思っています。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

論文、総説

- 1) Frank B. Cortazar, John L. Niles, David R.W. Jayne, Peter A. Merkel, Annette Bruchfeld, Huibin Yue, Thomas J. Schall, Pirow Bekker, and the ADVOCATE Study Group, on behalf of, Renal Recovery for Patients with ANCA-Associated Vasculitis and Low eGFR in the ADVOCATE Trial of Avacopan, *Kidney International Reports*(8,4,860-870),2023/Apr
- 2) Higashitani K, Yoshimi R, Sato Y, Watanabe T, Ihata A, Rituximab and mepolizumab combination therapy for glucocorticoid-resistant myocarditis related to eosinophilic granulomatosis with polyangiitis, *Mod Rheumatol Case Rep*. 2022 Jan 7;6(1):87-92. doi: 10.1093/mrcr/rxab022, PMID: 34473835

著書

- 1) 井畑 淳、3.難治性関節リウマチ-D2TRA とは何か、Medical Practice(40,2,198-208)、2023/2/1
- 2) 井畑 淳、Q13. 禁煙はすべき？喫煙はなぜよくない？、ここが変わった！関節リウマチの治療、薬局(74,3)、2023/3/1

学会・研究会発表

- 1) 井畑 淳、インフォデミックは関節リウマチ(RA)にどんな影響を及ぼしたか？コロナ禍における生活の変化と情報源について～NinJa2020 を用いた解析、第 76 回国立病院総合医学会、2022/10/8
- 2) 井畑 淳、コロナ禍における関節リウマチ患者の生活の変化と情報源について～NinJa2020 を用いた解析、第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会、2022/4/27
- 3) 井畑 淳、Impact of COVID-19 news sources on rheumatoid arthritis patients' lifestyle and their disease activity from NinJa 2020 cohort study, European Congress of Rheumatology 2022, Copenhagen, Denmark、2022/6/1
- 4) 井畑 淳、コロナ禍における関節リウマチ患者の生活の変化と情報源について～NinJa2020 を用いた解析、第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会、2023/4/27
- 5) 井畑 淳、オープニングリマークス、第 11 回横浜・川崎リウマチ若草・秋桜の会、2023/5/13
- 6) 井畑 淳、COVID-19 禍におけるリウマチ治療の変化、リンヴォック適正使用推進インターネットライブセミナー、2022/5/17
- 7) 井畑 淳、膠原病・リウマチ内科からみる間質性肺疾患、ILD Web Semina、2022/5/18
- 8) 井畑 淳、Perspective on therapeutic options for CTD-ILD～現時点で考えられる問題点は？～、CTD-ILD の最適治療を考える in Kanagawa、2022/6/16
- 9) 井畑 淳、コメンテーター、Sarilumab And Rheumatology Internet seminar the 6th、2022/6/20
- 10) 井畑 淳、全身性エリテマトーデスの治療～「百花繚乱」の時代を受けて～、LUPUS Seminar、2022/6/28
- 11) 井畑 淳、関節リウマチ薬物治療の最新知見、関節リウマチ薬物治療研修会、2022/7/12
- 12) 井畑 淳、RA—BEYOND 試験について、神奈川リウマチ性疾患 Evidence 検証研究会、2022/7/15
- 13) 井畑 淳、関節リウマチ診療に関する EULAR2022 からの最新のトピックス、リウマチエリア WEB セミナー、2022/7/27
- 14) 井畑 淳、PF-ILD-リウマチ性疾患領域における問題点は？、PF-ILD Web Seminar、2022/8/23
- 15) 井畑 淳、コロナ禍における関節リウマチ患者の生活の変化と情報源について～NinJa2020 を用いた解析、RA WEB Seminar、2022/9/2
- 16) 井畑 淳、実臨床における JAK 阻害剤の立ち位置は、Lilly RA Web Seminar、2022/9/8
- 17) 井畑 淳、全身性エリテマトーデス～病気の基礎知識、日常生活の過ごし方～、令和 4 年度神奈川区難病講演会、2022/9/15

- 18) 井畑 淳、インフォデミックは関節リウマチ(RA)にどんな影響を及ぼしたか？コロナ禍における生活の変化と情報源について～NinJa2020 を用いた解析、第 76 回国立病院総合医学会、2022/10/8
- 19) 井畑 淳、ディスカッサント、リンヴォック適正使用推進インターネットライブセミナー、2022/10/18
- 20) 井畑 淳、皮膚筋炎・多発性筋炎～病気の理解と治療について～、令和 4 年度栄区難病医療講演会、2022/10/26
- 21) 井畑 淳、医師の働き甲斐改革と自己研鑽に関わるセミナー、2022/11/9
- 22) 井畑 淳、膠原病で気を付けるべき”肺”の症状とは、膠原病オンライン市民公開講座、2022/11/28
- 23) 井畑 淳、関節リウマチのこれから－ACR2022 の知見をふまえて－、TAISHO 関節リウマチ地域連携セミナー、2022/12/5
- 24) 井畑 淳、コメンテーター、Sarilumab And Rheumatology Internet seminar the 7th、2022/12/12
- 25) 井畑 淳、関節破壊進展抑制の重要性とフィルゴチニブへの期待、RA Expert Meeting in 横浜、2022/12/14
- 26) 井畑 淳、実臨床で時の洗礼を受けた JAK 阻害剤の現在とこれから、横浜市整形外科医会特別講演会、2023/1/24
- 27) 井畑 淳、オルミエント減量投与の臨床的意義は？－効果と安全性の面から考察する－、日本人のための JAK 阻害剤最適治療法を考える会、2023/3/7
- 28) 井畑 淳、SLE と I 型 IFN を実臨床から考える、SLE Expert Conference、2023/3/13
- 29) 井畑 淳、パネリスト、神奈川県内科医学会令和 4 年度リウマチ・膠原病対策委員会 学術講演会、2023/3/30

座長

- 1) 井畑 淳、第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会、2022/4/26
- 2) 井畑 淳、Kanagawa RA Bone Health Age free Conference 4th、2022/9/7
- 3) 井畑 淳、Young Rheumatologists Discussion～JAK 阻害剤は生き残れるのか～、2022/10/19
- 4) 井畑 淳、SLE Brush up Seminar、2022/10/24
- 5) 井畑 淳、第 12 回横浜川崎リウマチ若草・秋桜の会、2022/10/21

精神科

当科は県西部では数少ない有床の総合病院精神科として、幅広い病状を対象とした診断・治療を行っています。対象疾患としては、うつ病、双極性障害、不安障害、摂食障害、統合失調症、器質性精神障害など、精神疾患全般です。

当科の入院患者さんは、地域の精神科・心療内科クリニックから入院のご依頼を受けて入院された方が約半数でして、閉鎖病棟 20 床と限られた病床数ながら、地域の精神医療をサポートすることが当病棟の重要な役割の一つと考えております。興奮や暴力など行動面での問題が顕著な方の対応は難しいものの、総合病院という特性を活かし、修正型電気けいれん療法も治療の選択肢とした重症うつの治療、思春期以降の神経性やせ症の入院治療などにも取り組んでおります。

本年度は精神科部長も含め、常勤医 5 名中 4 名が交代となり、加えて、精神科病床数が半数に削減されるという、当科としても大きな変化の年となりましたが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



業績

なし

脳神経内科

当科は脳、脊髄、末梢神経、筋や、全身性疾患に伴う脳・神経・筋の障害など、幅広い領域を対象とし、急性期疾患から慢性期疾患まで、common disease から rare disease まで、幅広く対応いたします。

近年、脳神経内科領域では、新たな疾患修飾薬が多数登場しており、免疫性神経疾患、頭痛、認知症などにおいて治療の選択肢が増えています。当院は地域中核病院として、これらの新規治療法にも対応をいたします。

また、小児期からの神経難病においても新規治療薬の登場などにより予後の改善している疾患が増えており、小児科からの神経難病の移行医療の受け入れの需要も拡大しています。引き続き訪問診療の先生方と連携しながら受け入れを進めて参ります。

当科外来は診察時間を確保するために完全予約制としておりますが、ぜひ遠慮なく地域連携室宛てに新規患者さんの紹介をお願いします。認知症が疑われる患者さんについてはもの忘れ外来への予約をお願いします。

また当院は国立病院機構（NHO）として臨床研究や治験などをおこなう環境も整っており、治験やNHO ネットワーク研究にも今後参加していきます。

今後とも宜しく申し上げます。

論文、総説

- 1) Hatano T, Kano O, Sengoku R, Yoritaka A, Suzuki K, Nishikawa N, Mukai Y, Nomura K, Yoshida N, Seki M, Matsukawa MK, Terashi H, Kimura K, Tashiro J, Hirano S, Murakami H, Joki H, Uchiyama T, Shimura H, Ogaki K, Fukae J, Tsuboi Y, Takahashi K, Yamamoto T, Yanagisawa N, Nagayama H: Evaluating the impact of adjunctive istradefylline on the cumulative dose of levodopa-containing medications in Parkinson's disease: study protocol for the ISTRA ADJUST PD randomized, controlled study. BMC Neurol. 22 (1) :71, 2022.
- 2) Higashiyama Y, Kuroki M, Kudo Y, Hamada T, Morihara K, Saito A, Miyaji Y, Kimura K, Joki H, Kishida H, Doi H, Ueda N, Takeuchi H, Johkura K, Tanaka F: Reduced likelihood of the Poggendorff illusion in cerebellar strokes: a clinical and neuroimaging study. Brain Commun. 5 (2) :fcad053, 2023.
- 3) Watanabe D, Tsukamoto H, Abe T, Kitao R, Okuma A, Mihara M, Katsumoto A, Iwahashi Y, Higashiyama Y, Miyaji Y, Joki H, Doi H, Komori T, Tanaka F: Ultrasonographic evaluation reveals thinning of cervical nerve roots and peripheral nerves in spinal and bulbar muscular atrophy. Neurol Sci. 43(7):4267-4274, 2022.

学会発表

- 1) 上木 英人、宮地 洋輔、東山 雄一、小林絵礼奈、林 紀子、木村 活生、岸田 日帯、上田 直久、土井 宏、竹内 英之、田中 章景：筋萎縮性側索硬化症における経皮内視鏡的胃瘻造設術の鎮静に関する検討、第 63 回日本神経学会学術大会、東京、2022.5.
- 2) 渡邊 裕樹、木村 瑞希、竹井 暖、小島 麻里、上木 英人：視神経脊髄炎スペクトラム障害に対するステロイドパルス療法後に急性汎発性発疹性膿疱症を合併した 1 例、第 685 回日本内科学会関東地方会、東京、2023/3/11

講演など

- 1) 上木 英人：第 25 回横浜脳卒中・リハ連携研究会 (Y-CIRCLE) -開会の辞、代表世話人。Web、2022/6/8
- 2) 上木 英人：超高齢社会における Parkinson 病と認知症。地域連携 Web セミナー、講演、横浜 (ハイブリッド)、2022/9/8
- 3) 上木 英人：エンレストが適する患者像を考える。第 2 回高血圧フォーラム、ディスカッショント。Web、2022/9/21
- 4) 上木 英人：横浜市立大学附属病院 JMECC (日本内科学会認定内科救急・ICLS 講演会)、講師 (ファシリテーター)。横浜、2022/9/23
- 5) 上木 英人：パーキンソン病の運動症状と知っておきたい非運動症状。Neurology Web Seminar、講演。Web、2022/11/11

- 6) 上木 英人：第 26 回横浜脳卒中・リハ連携研究会 (Y-CIRCLE) -開会の辞、代表世話人。Web、2022/12/7
- 7) 上木 英人：パーキンソン病の病態と薬物療法。戸塚区薬剤師会研修会、講演。横浜市戸塚区、2023/2/13
- 8) 上木 英人：脳卒中後てんかんについて。てんかんの地域連携を考える in 横浜、講演。Web、2023/2/17
- 9) 上木 英人：進行期パーキンソン病の症例検討会～患者さんの最善な治療選択を考えよう！～、ディスカッサント。Web、2023/3/9
- 10) 木村 瑞希：進行期パーキンソン病の症例検討会～患者さんの最善な治療選択を考えよう！～、講演。Web、2023/3/9

座長

- 1) 上木 英人、頭痛 Web セミナー、2022/7/4
- 2) 上木 英人、横浜南西部 PSC web Seminar、2022/10/13

呼吸器内科

令和4年度の呼吸器内科は、常勤3名（釣木澤、間邊、増本）、期間職員3名（長田、本林、仲出川）の計6名と心機一転のメンバーで通常業務の傍ら、臨床研究、学会発表を行っています。日常診療では肺癌などの悪性疾患、COPD、非結核性抗酸菌症、間質性肺炎等の一般呼吸器疾患に加え、気管支喘息（BA）、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（EGPA）、アレルギー性気管支肺真菌症（ABPM）などの多彩なアレルギー疾患の診療も行い、今年度より日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設に認定されました。研究ではBA、EGPA、ABPMなどのアレルギー疾患を対象とした臨床研究や、真菌が関与する疾患の環境調査、抗原解析などを国立医薬品食品衛生研究所と共同研究を実施しています。本年度は日本アレルギー学会学術大会（2演題）、日本アレルギー学会関東地方会（3演題）、日本呼吸器学会関東地方会（2演題）で発表しました。上記の成果は論文として英文掲載2本、投稿準備中2本です。

原著論文

- 1) Oshikata C, Watanabe M, Hashimoto K, Yamazaki A, Kobayashi N, Konuma R, Ishida M, Kobayashi S, Shimada T, Kaneko T, Kamata Y, Kuriyama S, Kure S, Yanai M, Tsurikisawa N. Mite allergen avoidance decreases allergic symptoms in children in Ishinomaki city of Japan after natural disasters. *Allergol Immunopathol (Madr)*. 2022;50(2):23–32
- 2) Oshikata C, Watanabe M, Hashimoto K, Yamazaki A, Kobayashi N, Konuma R, Ishida M, Kobayashi S, Shimada T, Kaneko T, Kamata Y, Kuriyama S, Kure S, Yanai M, Tsurikisawa N. Effects of mite allergen avoidance in children in two distant towns in Japan. *La Revue Française d'Allergologie* 2022;62:661-9
- 3) Adachi S, Oshikata C, Kaneko T, Tsurikisawa N. Rituximab and dupilumab improve eosinophilic granulomatosis with polyangiitis with multiple pulmonary thrombi. *Allergy Asthma Clin Immunol*. 2022;18(1):18. doi: 10.1186/s13223-021-00639-x.
- 4) Oshikata C, Zhu Y, Tanaka R, Kurihara Y, Kaneko T, Tsurikisawa N. Anaphylaxis caused by cross reactivity of furocoumarins in lemon with orchard grass. *Annals of Allergy, Asthma & Immunology* 2022 Jun;128(6):721-722.
- 5) Masumoto N, Watanabe K, Horita N, Hara Y, Kobayashi N, Kaneko T. Elderly sarcoidosis in Japan. *J Int Med Res*. 2022 Dec;50(12):3000605221142705. doi: 10.1177/03000605221142705.
- 6) Sakurai Y, Oshikata C, Katayama T, Takagi S, Kaneko Y, Yo K, Kaneko T, Kubota H, Matsubara T, Tsurikisawa N. A case of eosinophilic polyangiitis with granulomatosis that evolved to cardiac arrest due to advanced atrioventricular block. *Naoya Journal Medical Science*(85,1,171-178), 2023/January

総説

- 1) 釣木澤 尚実、押方 智也子、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、呼吸器内科 2022 ; 41 : 90-98
- 2) 釣木澤 尚実、押方 智也子、総合アレルギーガイドライン、過敏性肺炎 協和企画
- 3) 釣木澤 尚実、押方 智也子、アレルギー性疾患克服に向けての実践、環境整備、*Medical Practice* 2022 : 39 : 1211-1217

著書

- 1) 釣木澤 尚実、押方 智也子、喘息・COPD と気道疾患 包括診療マニュアル、3-10 好酸球性多発血管炎性肉芽腫、2023 pp258-271 中外医学社

学会・研究会発表

- 1) 押方 智也子、渡辺 麻衣子、金子 猛、鈴木 陽、矢内 勝、釣木澤 尚実、インターネットを介した環境整備講習会における抗原回避の検証、第62回日本呼吸器学会学術大会、2022/4/22、京都
- 2) 釣木澤 尚実、押方 智也子、金子 猛、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症に対する Mepolizumab は再燃を抑制する、第 62 回日本呼吸器学会学術大会、2022/4/23、京都
- 3) 北條 祥子、水越 厚史、金谷 久美子、宮田 幹夫、小倉 英郎、釣木澤 尚実、押方 智也子、小澤 真紀、相場 節也、黒岩 義之、疫学研究者からみた環境過敏症 Update (その2) ～問診票スコアや臨床所見に基づく化学物質・電磁過敏症とアレルギー疾患の比較～、第 30 回日本臨床環境医学会学術集会、2022/6/23、東京
- 4) 長田 怜永子、押方 智也子、間邊 早紀、増本 菜美、本林 優人、仲出川 諒、朱 瀛瑤、田中 諒、栗原 佑一、佐々木 文、金子 猛、釣木澤 尚実、グルタミン酸ナトリウムにより誘発された口腔アレルギーの一例、第 71 回日本アレルギー学会学術大会、2022/10/8、東京
- 5) 釣木澤 尚実、押方 智也子、間邊 早紀、増本 菜美、長田 怜永子、本林 優人、仲出川 諒、金子 猛、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症に対する Mepolizumab の長期効果の検証、第 71 回日本アレルギー学会学術大会、2022/10/9、東京
- 6) 長田 怜永子、間邊 早紀、増本 菜美、本林 優人、仲出川 諒、朱 瀛瑤、田中 諒、栗原 佑一、佐々木 文、金子 猛、釣木澤 尚実、グルタミン酸ナトリウムにより誘発された食物アレルギーの一例、第 31 国際喘息学会 日本・北アジア部会、2022/11/25、東京
- 7) 増本 菜美、仲出川 諒、本林 優人、長田 怜永子、間邊 早紀、金子 猛、釣木澤 尚実、再燃を繰り返す慢性好酸球性肺炎 (CEP) に対し Dupilumab が奏功した一例、第 8 回日本アレルギー学会関東地方会、2022/12/10、東京
- 8) 本林 優人、仲出川 諒、長田 怜永子、増本 菜美、間邊 早紀、金子 猛、釣木澤 尚実、終末期 (V 期) と考えられたが Dupilumab が奏功したアレルギー性気管支肺アスペルギルス症 (ABPA) の一例、第 8 回日本アレルギー学会関東地方会、2022/12/10、東京
- 9) 仲出川 諒、本林 優人、長田 怜永子、増本 菜美、間邊 早紀、金子 猛、釣木澤 尚実、肺胸出血を呈した好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 (EGPA) に対し Rituximab が奏功した一例、第 8 回日本アレルギー学会関東地方会、2022/12/10、東京
- 10) 本林 優人、仲出川 諒、長田 怜永子、増本 菜美、間邊 早紀、釣木澤 尚実、肺非結核性抗酸菌症 *M. abscessus* subsp. *bolletii*(*M. bolletii*) に対し AMK 吸入が早期に奏功した一例、第 256 回日本呼吸器学会関東地方会、2023/2/25
- 11) 仲出川 諒、増本 菜美、本林 優人、長田 怜永子、間邊 早紀、釣木澤 尚実、irAE との鑑別を要した TS-1 による薬剤性間質性肺炎の一例、第 256 回日本呼吸器学会関東地方会、2023/2/25

その他

- 1) 釣木澤 尚実、第7回日本アレルギー学会関東地方会、一般演題「免疫・アレルギー性疾患」、座長 2022年3月 東京
- 2) 釣木澤 尚実、Xolair 1st Summit 2022 成人花粉症にオマリズマブが奏功した一例、2022年1月 東京
- 3) 釣木澤 尚実、難治性喘息 Web セミナー 重症喘息の多様性とデュピルマブの効果と安全性 2022.3月 Web
- 4) 釣木澤 尚実、Advisory Board Meeting どのように Dupilumab による症状を伴う好酸球増多症のリスクを回避するか? アドバイザー 2022.3月 Web
- 5) 釣木澤 尚実、EGPA Web セミナー 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の早期診断と治療、2022.8月 東京
- 6) 釣木澤 尚実、Yokohama・Shonan Lung Cancer Meeting Special Lecture 座長 2022.7月 藤沢市
- 7) 増本 菜美、Yokohama・Shonan Lung Cancer Meeting 進展型小細胞肺癌治療の Best Practice を考える パネリスト 2022.7月 藤沢市
- 8) 釣木澤 尚実、呼吸器疾患に親しむ会、 難治性喘息・COPD 治療の最新の知見、2022.7月 横浜
- 9) 釣木澤 尚実、横浜医療センター喘息診療 医療連携の会、 喘息の診断と治療～医療連携を含めて～ 2022.8月 戸塚区
- 10) 釣木澤 尚実、新潟 EGPA Seminar 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の病態と最新の治療、2022.9月 Web
- 11) 釣木澤 尚実、戸塚区地域医療連携 COPD 講演会 慢性閉塞性肺疾患 (COPD)・Asthma and COPD Overlap (ACO) の病態・診断・管理 2022.9 戸塚区
- 12) 釣木澤 尚実、重症喘息パートナーリングの会 地域におけるより良い重症喘息治療を考える 2022.10月 Web
- 13) 釣木澤 尚実、ILD 医療連携セミナー 間質性肺疾患の診断と治療 2022.12月 戸塚区
- 14) 増本 菜美、ILD 医療連携セミナー ILD 連携におけるクリニカルクエスト パネリスト 戸塚区
- 15) 釣木澤 尚実、第8回日本アレルギー学会関東地方会、一般演題「成人喘息2」、座長 2022年12月 東京
- 16) 釣木澤 尚実、ANCA 関連血管炎.com 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の早期診断と治療
- 17) 増本 菜美、湘南肺癌治療連携カンファレンス 非小細胞肺癌における術後補助療法を考える パネリスト 2022.10 藤沢市

消化器内科

消化器内科は常勤スタッフ 8 名、専攻医 4 名の計 12 名で診療しております。R3 年 4 月から、新たな肝疾患専門医、胆膵疾患専門医が赴任し、これまで大学で行われていたような検査・治療についてもほぼカバーできるようになりました。当院で対応できる検査・治療の一部を以下に紹介させていただきます。

肝臓領域

- ・フィブロスキャンを用いた肝線維化進展度の評価
- ・造影超音波検査による肝腫瘍の診断
- ・人工胸水、人工腹水下でのラジオ波焼灼術（RFA）
- ・肝動脈化学塞栓療法
- ・経頸静脈的肝生検
- ・経頸静脈的肝静脈圧測定

胆膵領域

- ・ ERCP による胆膵疾患の診断・治療
- ・超音波内視鏡による悪性疾患(膵癌、胆道癌など)・良性疾患(総胆管結石、早期慢性膵炎など)の診断
- ・超音波内視鏡下穿刺吸引法による胆膵疾患、粘膜下腫瘍、腫大リンパ節の診断
- ・超音波内視鏡を用いたインターベンション治療
- ・術後再建腸管に対する小腸鏡を用いた胆膵疾患の診断・治療

消化管領域:

- ・吐下血など消化管出血に対する救急対応
- ・食道・胃・大腸腫瘍性病変に対して内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を中心とした内視鏡治療
- ・小腸鏡を用いた小腸病変の精査・治療
- ・消化管悪性狭窄に対するステント治療
- ・OTSC を用いた内視鏡的瘻孔閉鎖術や止血困難例に対する治療

R4 年度から『膵癌早期診断プロジェクト』を立ち上げ早期膵癌発見への取り組みを積極的に行っています。当科ホームページを是非、御参照ください。

論文、総説

- 1) Kazuo Tarao, Akito Nozaki, Hirokazu Kamatsu, Naomi Ideno, Tatsuji Komatsu, Takaaki Ikeda, Masataka Taguri, Shin Maeda. Difference in incidence of developing hepatocellular carcinoma between hepatitis B virus-and hepatitis C virus-infected patients. World Journal of Meta-Analysis (10,3,186-194), 2022/Jun
- 2) Kobayashi T, Iwaki M, Nogami A, Honda Y, Ogawa Y, Imajo K, Saito S, Nakajima A, Yoneda M. Involvement of Periodontal Disease in the Pathogenesis and Exacerbation of Nonalcoholic Fatty Liver Disease/Nonalcoholic Steatohepatitis: A Review. Nutrients(15,5,1269),2023/Mar
- 3) Nogami A, Yoneda M, Iwaki M, Kobayashi T, Kessoku T, Honda Y, Ogawa Y, Imajo K, Higurashi T, Hosono K, Kirikoshi H, Saito S, Nakajima A. Diagnostic comparison of vibration-controlled transient elastography and MRI techniques in overweight and obese patients with NAFLD. Scientific Reports (12,1,21925), 2022/Dec
- 4) Nogami A, Yoneda M, Iwaki M, Kobayashi T, Honda Y, Ogawa Y, Imajo K, Saito S, Nakajima A. Non-invasive imaging biomarkers for liver steatosis in non-alcoholic fatty liver disease: present and future. Clinical and Molecular Hepatology (29, Suppl S123-S135), 2023/Feb
- 5) Nogami A, Iwaki M, Kobayashi T, Honda Y, Ogawa Y, Imajo K, Higurashi T, Hosono K, Kirikoshi H, Saito S, Nakajima A, Yoneda M. Real-world assessment of SmartExam, a novel FibroScan computational method: A retrospective single-center cohort study. Journal of Gastroenterology and Hepatology (38,2,321-329), 2023/Feb
- 6) Honda Y, Yoneda M, Kobayashi T, Iwaki M, Kawamura N, Nogami A, Kessoku T, Ogawa Y, Tomeno W, Imajo K, Horita N, Saito S, Kaneko T, Nakajima A. Meta-analysis of the diagnostic accuracy of serum type IV collagen 7S concentration for the staging of liver fibrosis in nonalcoholic fatty liver disease. Hepatology Research (53,3,219-227), 2023/Mar
- 7) Kobayashi T, Ogawa Y (Contributed equally), Shinoda S, Iwaki M, Nogami A, Honda Y, Kessoku T, Imajo K, Yoneda M, Saito S, Yamamoto K, Oeda S, Takahashi H, Sumida Y, Nakajima A. A 3-step approach to predict advanced fibrosis in nonalcoholic fatty liver disease: impact on diagnosis, patient burden, and medical costs. Scientific Reports (12,1,18174), 2022/Oct
- 8) Iwaki M, Kessoku T, Tanaka K, Ozaki A, Kasai Y, Yamamoto A, Takahashi K, Kobayashi T, Nogami A, Honda Y, Ogawa Y, Imajo K, Oyamada S, Kobayashi N, Aishima S, Saito S, Nakajima A, Yoneda M. Comparison of long-term prognosis between non-obese and obese patients with non-alcoholic fatty liver disease. Journal of Gastroenterology and Hepatology Open (6,10,696-703), 2022/Aug
- 9) Iwaki M, Kessoku T, Tanaka K, Ozaki A, Kasai Y, Yamamoto A, Takahashi K, Kobayashi T, Nogami A, Honda Y, Ogawa Y, Imajo K, Yoneda M, Kobayashi N, Saito S, Nakajima A. Efficacy and safety of guanabenz acetate treatment for non-alcoholic fatty liver disease: a study protocol for a randomised investigator-initiated phase IIa study. British Medical Journal Open(12,7,e060335), 2022/Jul

- 10) Kurokawa S, Yoneda M, Ogawa Y, Honda Y, Kessoku T, Imajo K, Saito S, Nakajima A, Hotta K. Two differentially methylated region networks in nonalcoholic fatty liver disease, viral hepatitis, and hepatocellular carcinoma. *BMC Gastroenterology* (22,1,278), 2022/Jun
- 11) Yoneda M, Kobayashi T, Honda Y, Ogawa Y, Kessoku T, Imajo K, Nogami A, Taguri M, Kirikoshi H, Saito S, Nakajima A. Combination of tofogliflozin and pioglitazone for NAFLD: Extension to the ToPiND randomized controlled trial. *Hepatology Communications* (6,9,2273-2285), 2022/Sep
- 12) Marcello Picchio, Eiji Yamada. Diverticular bleeding. *Colonic Diverticular Disease* (Springer Cham). Pages 111-118. [M. Picchio] Division of General Surgery, "P. Colombo" Hospital, ASL Roma 6, Velletri (Roma), Italy. [E. Yamada] Gastroenterology Division, National Hospital Organization Yokohama Medical Center, Yokohama-shi, Kanagawa, Japan. 2022/7/1. https://doi.org/10.1007/978-3-030-93761-4_10.
- 13) Kamada Y, Takahashi H, Ogawa Y, Hyogo H, Nakamura K, Yada T, Asada N, Bando T, Sawano H, Hatanaka M, Tosa T, Ando M, Hikita E, Yoshida K, Koseki M, Sumida Y, Maeda K, Fujii M, Aishima S, Hayakawa M, Nakajima A; Japan Study Group of NAFLD (JSG-NAFLD), Characterization of Nutrient Intake in Biopsy-Confirmed NAFLD Patients, *Nutrients*. 14 巻 17 号 3543 頁. 2022 Aug 23.
- 14) Kasai Y, Kessoku T, Tanaka K, Yamamoto A, Takahashi K, Kobayashi T, Iwaki M, Ozaki A, Nogami A, Honda Y, Ogawa Y, Kato S, Imajo K, Higurashi T, Hosono K, Yoneda M, Usuda H, Wada K, Kawanaka M, Kawaguchi T, Torimura T, Kage M, Hyogo H, Takahashi H, Eguchi Y, Aishima S, Kobayashi N, Sumida Y, Honda A, Oyamada S, Shinoda S, Saito S, Nakajima A. Association of Serum and Fecal Bile Acid Patterns With Liver Fibrosis in Biopsy-Proven Nonalcoholic Fatty Liver Disease: An Observational Study. *Clinical and Translational Gastroenterology*. 13 巻 7 号 e00503 頁. 2022 Jul 1. Epub 2022 May 26.
- 15) Ozaki A, Kessoku T, Tanaka K, Yamamoto A, Takahashi K, Takeda Y, Kasai Y, Iwaki M, Kobayashi T, Yoshihara T, Kato T, Suzuki A, Honda Y, Ogawa Y, Fuyuki A, Imajo K, Higurashi T, Yoneda M, Taguri M, Ishiki H, Kobayashi N, Saito S, Ichikawa Y, Nakajima A. Effectiveness of Naldemedine Compared with Magnesium Oxide in Preventing Opioid-Induced Constipation: A Randomized Controlled Trial. *Cancers*. 14 巻 9 号 2112 頁. 2022 Apr 24.
- 16) Takano K, Ashikari K, Tamura S, Misawa N, Takatsu T, Yoshihara T, Nonaka T, Arimoto J, Sakamoto A, Chiba H, Fujii S, Nakajima A, Higurashi T. Clinicopathological features of endoscopically treated early gastric cancer with lymphovascular infiltration. *Journal of Cancer Research and Clinical Oncology*. 2022 Dec 30. doi: 10.1007/s00432-022-04536-7. Online ahead of print.
- 17) 小川 祐二、永井 康貴、中島 淳、エラストグラフィによる脾硬度測定法、最新ガイドラインに基づく 消化器疾患診療指針 2023-'24(294-297)、2023/3/20

学会・研究会発表

- 1) 小川 祐二、FibroScan630 を用いた脾硬度測定と血清 4 型コラーゲン 7 S による食道胃静脈瘤診断に関する検討、第 30 回日本消化器関連学会週間 Japan Digestive Disease Week 2022、2022/10/27
- 2) 小川 祐二、PREVALENCE OF NONALCOHOLIC FATTY LIVER DISEASE AND DISTRIBUTION OF EACH FIBROSIS STAGE USING VIBRATION-CONTROLLED TRANSIENT ELASTOGRAPHY、American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD) 2022、2022/11/5
- 3) 鈴木 雅人、CT で診断がつかない総胆管結石に対して次に行うべき検査は？～EUS vs MRCP, RCT を踏まえた提案～、第 108 回日本消化器病学会総会、2022/4/21
- 4) 池田 佳彦、術後再建腸管の総胆管結石症に対する小腸鏡下 ERCP の有効性の検討、第 108 回日本消化器病学会総会、2022/4/21
- 5) 池田 佳彦、90 歳以上の超高齢者に対する総胆管結石治療の検討、第 30 回日本消化器関連学会週間 Japan Digestive Disease Week 2022、2022/10/29
- 6) 上地 大樹、内視鏡的経乳頭的胆嚢ドレナージにおける新規ガイドワイヤーの治療成績、第 103 回日本消化器内視鏡学会総会、2022/5/13
- 7) 上地 大樹、市中病院での総胆管結石診断における EUS の有用性、第 30 回日本消化器関連学会週間 Japan Digestive Disease Week 2022、2022/10/28
- 8) 齋藤 淳、術前診断が可能であった膵管内管状乳頭腺癌の一例、第 76 回国立病院総合医学会、2022/10/8
- 9) 山田 英司、知識のアップデート 下部消化管診療でおさえおきたい 2 つのこと、第 312 回横浜藤沢消化器疾患研究会、2023/3/13
- 10) 鈴木 雅人、病診連携で挑む膵臓がんとの闘い～早期膵癌診断プロジェクト～、第 310 回横浜藤沢消化器疾患研究会、2022/7/10
- 11) 鈴木 雅人、重症急性膵炎後の乳び腹水に対して内視鏡的ネクロセクトミーが奏功した一例、横浜肝胆膵凝固障害オンラインセミナー、2022/11/25
- 12) 小田 貴之、春日 範樹、高柳 卓矢、関野 雄典、胆道出血を契機に診断された自己免疫性膵炎再燃、IgG4 関連硬化性胆管炎の一例、第 58 回日本胆道学会学術集会、2022/10/13、所属：労働者健康福祉機構横浜労災病院 消化器内科
- 13) 佐伯 優美、内山 詩織、林 映道、上野 航大、利井 辰光、枇杷田 裕祐、佐野 誠、稲垣淳太、春日 範樹、高柳 卓矢、金沢 憲由、関野 雄典、永瀬 肇、肝膿瘍に続発した骨盤内膿瘍に対し、超音波内視鏡下経直腸ドレナージが奏功した一例、第 370 回日本消化器病学会関東支部、2022/7/16、所属：労働者健康福祉機構横浜労災病院 消化器内科

- 14) 佐伯 優美、内山 詩織、林 映道、小田 貴之、上野 航大、利井 辰光、枇杷田 裕祐、佐野 誠、稲垣 淳太、春日 範樹、高柳 卓矢、金沢 憲由、関野 雄典、永瀬 肇、C型肝炎に対する直接作用型抗ウイルス治療後早期に発症した肝細胞癌に対して、肝動脈化学塞栓療法が有用であった一例、第 372 回日本消化器病学会関東支部、2022/12/10、所属：労働者健康福祉機構横浜労災病院 消化器内科
- 15) 野中 敬、実例で解説！胃型形質の胃腫瘍、第 311 回横浜藤沢消化器疾患研究会、2022/11/14

講演

- 1) 小川 祐二、Spleen stiffness: Measurement and clinical application 2022 Annual Symposium for the Korean Study Group of Portal Hypertension、2022/8/27
- 2) 小川 祐二、当院における肝細胞がん治療について、横浜南西部肝細胞がん診療セミナー、2022/9/6
- 3) 小川 祐二、脂質異常症・糖尿病を踏まえた NASH/NAFLD の治療について、Kowa Web Conference、2022/10/6
- 4) 小川 祐二、NAFLD/NASH における糖尿病・脂質異常治療について、第 2 回 Kowa NAFLD Webinar、2022/12/12

ディスカッサー・コメンテーター

- 1) 小川 祐二、HCC 最適な治療戦略を考える、Yokohama Research Forum on HCC、2023/3/9
- 2) 野中 敬、Session3 ESD モデルを用いた ESD Hands-On Seminar、第 6 回湘南 ESD Hands-On Seminar、2022/4/15

座長

- 1) 鈴木 雅人
専修医Ⅳ（胆・その他）、第 372 回 日本消化器病学会関東支部例会、2022 年 12 月 10 日
- 2) 松島 昭三
Lectur1、横浜南西部肝細胞がん診療セミナー、2022 年 9 月 6 日
- 3) 松島 昭三
講演 1、IBD Hybrid Seminar. 炎症性腸疾患における診療連携を考える、2023 年 3 月 15 日
- 4) 野中 敬
特別講演 1、横浜 腸と肝臓を考える会、2022 年 11 月 24 日

循環器内科

横浜医療センター循環器内科は、「365 日 24 時間、あらゆる循環器疾患と断らない」を目標に掲げ、心臓血管外科と協力し、24 時間体制で診療にあたっています。昨年は 1700 例以上の入院患者さんの治療を行うことができました。

また当科は、日本循環器内科学会研修施設、日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設、日本不整脈学会不整脈専門医研修施設であります。各部門の専門医が複数在籍し、心不全、虚血性心疾患、頻脈性不整脈などすべて高いレベルでの診療が可能です。各専門分野の垣根が低く、フットワークよく治療を行えるのが強みであり特徴です。



学会・研究会発表

- 1) 前田 遼造、ステント血栓症の一例 最近の抗血小板薬の使用法について、2022/4/8
- 2) 齋藤 貴士、超高齢者における抗凝固法、湘南横浜循環器 WEB カンファレンス、2022/4/18
- 3) 松井 優子、心房細動に対するアブレーション～今日における適応や戦略についての知見、当院でのアブレーション症例について～、第 351 回戸塚区泉区循環器病研究会、2022/5/13
- 4) 松井 優子、左房後壁隔離に EnSite X Omnipolar Technology の activation vectors が有効だった一例、第 264 回日本循環器学会関東甲信越地方会、2022/5/30

- 5) 塚本 圭、当院における心不全治療の取り組みとこれから、心不全地域連携 WEB 講演会、2022/6/10
- 6) 坂井 政之、三尖弁置換術後の徐脈性心房細動に対してリードレスペースメーカー植え込み術を行った一例、2022/6/4
- 7) 坂井 政之、ペースメーカーの基本的機能と当院での治療について、第 352 回戸塚区・泉区循環器病研究会、2022/6/17
- 8) 齋藤 貴士、心不全ステージ C に対するエンレスト投与の経験からの考察、ANRI WEB Symposium、2022/6/20
- 9) 塚本 圭、心不全ステージ D に対するエンレスト投与の経験からの考察、ANRI WEB Symposium、2022/6/20
- 10) 芹川 直輝、当院の虚血評価について、第 353 回戸塚区・泉区循環器病研究会、2022/7/8
- 11) 塚本 圭、より良い心不全チーム医療を目指して～当院における取り組み～、循環器 Seminar in 戸塚、2022/7/19
- 12) 犬塚 慶、三心房に合併した持続性心房細動にカテーテルアブレーションを行った一例、第 269 回日本循環器学会関東甲信越地方会、2022/9/3
- 13) 高橋 実来、脱水とアシドーシスを契機に誘発された冠攣縮により ST 上昇型心筋梗塞を発症した 1 例、第 265 回 日本循環器学会関東甲信越地方会、2022/9/3
- 14) 菊池 健介、心室期外収縮の起源診断と治療戦略、第 354 回戸塚区・泉区循環器病研究会
- 15) 犬塚 慶、三心房に合併した持続性心房細動にカテーテルアブレーションを行った一例、第 76 回国立病院総合医学会、2022/10/7
- 16) 菊池 春香、心臓サルコイドーシス、第 355 回戸塚区・泉区循環器病研究会、2022/10/14
- 17) 菊池 健介、鎖骨下動脈の急性閉塞に対し R2P SlenGuide を用いて、血栓吸引を行った 1 例、第 60 回日本心血管インターベンション治療学会、2022/10/15
- 18) 塚本 圭、ANRI の使いどころ～高血圧から心不全～、ANRI 高血圧適応追加 1 周年講演会、2022/10/19
- 19) 菊池 春香、EVT/PCI など TBD、Under40Young Generation Case Conference、2022/10/21
- 20) 松井 優子、低心機能、心不全を伴う持続性心房細動に対するカテーテルアブレーション、心不全診療 OnLine 講演会、2022/10/31
- 21) 高橋 実来、静脈血栓塞栓症について、第 356 回戸塚区・泉区循環器病研究会、2022/11/11
- 22) 菊池 健介、右房側壁横切開に伴う切開線絞痕関連心房頻拍に対し、切開線から三尖弁方向にブロックラインを作成することで頻拍停止を得た 1 例、日本不整脈心電学会 カテーテルアブレーション関連秋季大会 2022、2022/11/26
- 23) 塚本 圭、当院におけるトルバプタンの使用状況、第 43 回日本臨床薬理学会学術総会、2022/11/30
- 24) 高橋 実来、脱水とアシドーシスを契機に誘発された冠攣縮により ST 上昇型心筋梗塞を発症した一例、第 7 回 YJC (横浜循環器セミナー)、2022/12/2

- 25) 犬塚 慶、心臓突然死と植え込み型除細動器について、第 357 回戸塚区・泉区循環器病研究会、2022/12/9
- 26) 森 文章、高齢化社会における心房細動アブレーション、循環器フォーラム in 横浜西部、2023/1/17
- 27) 齋藤 貴士、心臓 MRI について、第 358 回戸塚区・泉区循環器病研究会、2023/2/10
- 28) 芹川 直輝、持続性心房細動の洞調律化により、左右短絡率改善を認めた心房中隔欠損症の 1 例、第 267 回日本循環器学会関東甲信越地方会、2023/2/25
- 29) 松井 優子、Coarse Fibrillatory Waves in patients with persistent Atrial Fibrillation is A Simple Indicator of Good Clinical Outcome after Catheter Ablation、第 87 回日本循環器学会学術集会 2023、2023/3/11

座長

- 1) 森 文章 2022/4/12 (火) 第 2 回横浜南部心臓リハビリテーション連携の会
- 2) 森 文章 2022/4/18 (月) 湘南横浜循環器 Web カンファレンス
- 3) 森 文章 2022/5/11 (水) iATP の神髄-A T P の進化を考える-
- 4) 森 文章 2022/5/7 (土) 第 59 回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会
- 5) 森 文章 2022/6/10 (金) 心不全地域連携 WEB 講演会 session2
- 6) 森 文章 2022/6/21 (火) Herat Failure meetingI
- 7) 森 文章 2022/7/19 (火) 循環器 Seminar in 戸塚
- 8) 森 文章 2022/7/25 (月) 心不全病連携講演会
- 9) 森 文章 2022/10/31 (月) 心不全診療 ONLINE 講演会
- 10) 森 文章 2022/12/2 (金) 第 7 回 Y J C (横浜循環器セミナー)
- 11) 森 文章 2022/12/19 (月) Cryo Web Discussion
- 12) 森 文章 2023/2/24 (金) Herat failure & Hypertension Forum

開会の儀

- 1) 森 文章 横浜市南西部 P S C WEB セミナー 2022/10/13

閉会の儀

- 1) 森 文章 横浜市心不全関連 WEB TPK ガーデンシティより 2022/7/26

司会

- 1) 森 文章 Under 40 Young Generation Case Conference 2022/10/21

パネリスト

- 1) 坂井 政之 植え込み型デバイスにおける遠隔モニタリングシステムの運用について
2022/10/13

ディスカッサント

- 1) 塚本 圭 横浜の心不全急性期治療を考える 2022/5/30 (月)
- 2) 前田 遼造 循環器 Seminar in 戸塚 2022/7/19 (火)

討論

- 1) 齋藤 貴士 小規模症例検討会における討論 2022/6/27 (月)
- 2) 塚本 圭 第1回 横浜市心臓リハビリテーション推進事業検討会 2022/10/25 (火)

コメンテーター

- 1) 坂井 政之 CRT WEB セミナー 2022/7/6
- 2) 齋藤 貴士 CRT WEB セミナー 2022/9/28
- 3) 松井 優子 WEB 講演会 SPICY LINKS 2022/10/20
- 4) 齋藤 貴士 Cryo Balloon WEB Symposium 2022/10/25
- 5) 松井 優子 Cryo Web Discussion 2022/12/19
- 6) 坂井 政之 CRM/EP Winter Conference for U-40 EP Doctor Session4 2023/1/17
- 7) 齋藤 貴士 BIND Conference 11th session 2023/1/25(水)
- 8) 犬塚 慶 CRT Basic コース 2023/2/15

腎臓内科

腎臓内科は今年度より 4 名に増員になりました。横浜市立大学腎臓高血圧内科教室から派遣されています。当科の診療内容は、腎炎・ネフローゼ症候群の診断・治療、高血圧、CKD の教育入院、常染色体優性遺伝多発性嚢胞腎(ADPKD)治療、血液透析・腹膜透析導入、急性腎障害などです。年間透析導入患者数は 30 名前後、腎生検数は 20 名前後です。

また日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会教育関連施設、日本高血圧学会認定施設に指定されています。

今年度のトピックスとして、2023 年 6 月 13 日より血液浄化センターを新たに開設致しました。近隣の医療機関から信頼される血液浄化センターを目標に、スタッフ一同、より一層努力していく所存であります。



学会・研究会発表

- 1) 牧内 睦美、毛利 史將、松下 啓、IgA 腎症を合併した微小変化型ネフローゼ症候群の一例、第 681 回日本内科学会関東地方会、2022/10/2

小児科

横浜市南部地域随一の総合病院小児科として、近隣クリニックとの連携を重視し、かかりつけ医とともに地域の子どもたちの健康を守る小児医療体制を構築しています。

14名の常勤医による無理なく持続可能な365日24時間診療体制を敷いており、横浜市小児救急拠点病院の一つとしての小児救急医療、産婦人科との良好な関係をもとにした充実した周産期医療（NICU）、多くの専門医に裏打ちされたアレルギー診療の3本柱を中心に、他にも循環器、神経、腎臓、内分泌など各専門外来も設置して様々なニーズに対応しています。

近隣クリニックからの紹介、救急車は何かあっても引き受けることを徹底しています。地域の皆様に「横浜医療センターなら安心して子どもを任せられる」と言っていただける小児科を目標にこれからも努力を続けていきます。



論文、総説

- 1) 松澤 崇、脇田 浩正、江原 元気、栗生 耕太、先天性高インスリン性低血糖症を認めた 9p-症候群の姉妹例、横浜医学(73,17-20)、2022/4
- 2) 石井 怜、細田 順也、荻野 堯、田口 有香、井上 満穂、成川 雅俊、志水 利之、菅谷 憲太、若宮 卓也、渡辺 重朗、中野 裕介、銚碕 竜範、石川 利之、35kg 以下の小児に対して S-ICD 植込み術を安全に施行し得た 2 症例、心臓(54,729-33)、2022/6
- 3) 吉川 奈央子、川田 愛子、清宮 優香、安井 正貴、栗田 大輔、涌井 直人、金子 雅人、佐々木 恵吾、長井 真理、永嶋 早織、齋藤 千穂、鈴木 徹臣、立石 格、田中 文子、一過性骨髄異常増殖症の患児における肝線維化マーカーの長期的変化、小児科臨床(75,403-6)、2022/6
- 4) Nagashima S, Yamamoto M, Inuzuka Y, Irahara M, Miyaji Y, Tadaki H, Ito S, Masuda S, Ito Y, Saito Y, Kobayashi S, Morita H, Yoshioka T, Shimizu H, Arai K, Ohya Y, Saito H, Matsumoto K, Nomura I, Tolerability and safety of a new elimination diet for pediatric eosinophilic gastritis and duodenitis, *Allerol Int*(19,S1323-8930),2022
- 5) Ohya T, Nishimura K, Murase A, Hattori S, Ohara A, Nozawa T, Hara R, Ito S, Impaired Interleukin-18 Signaling in Natural Killer Cells From Patients With Systemic Juvenile Idiopathic Arthritis, *ACR open Rheumatology*(4,6,503-510),2022,Mar
- 6) Mori H, Sumitomo N, Tsutsui K, Fukunaga H, Hayashi H, Nakajima H, Muraji S, Nabeshima T, Kawano D, Ikeda Y, Asano S, Nitta J, Watanabe S, Hokosaki T, Sato S, Chisaka T, Higaki T, Nakajima T, Tamura S, Kaneko Y, Ikeda K, Okada A, Kobayashi H, Motoki H, Minamiguchi H, Imamura T, Shizuta S, Kawamura M, Munetsugu Y, Suzuki T, Murakami T, Horigome H, Wada T, Takamuro M, Ozawa J, Suzuki H, Izumi D, Otsuki S, Chinushi M, Kato K, Miura M, Maeda J, Fukunaga M, Kondo H, Takahashi N, Tobiume T, Morishima I, Kuraishi K, Nakamura K, Hayashi H, Suzuki H, Yoshida Y, Fukamizu S, Hojo R, Nuruki N, Yoshinaga M, Hayashi K, Fukaya H, Kishihara J, Kobayashi T, Kato R, Efficacy of Subcutaneous implantable cardioverter-defibrillators in ≤ 18 year-old CHILDREN: SAVE-CHILDREN registry, *Int J Cardiol*(15,204-10),2023
- 7) Koyama Y, Miura M, Kobayashi T, Hokosaki T, Suganuma E, Numano F, Furuno K, Shiono J, Ebata R, Fuse S, Fukazawa R, Mitani Y, A registry study of Kawasaki disease patients with coronary artery aneurysms (KIDCAR), a report on a multicenter prospective registry study three years after commencement *Eur J Pediatr*(182,633-40),2023.

学会・研究会発表

- 1) 小林 孝輔、平井 夏世、野原 千広、白井 綾乃、加藤 愛美、高橋 篤史、伊波 勇輝、高橋 英里佳、塩谷 裕美、原 良紀、小笹 浩二、只木 弘美、鉾崎 竜範、福山 綾子、鎗木 陽一、クレイジーソルトとたこ焼き粉によるパンケーキ症候群の 2 例、第 125 回日本小児科学会、2022/4/1
- 2) 魚住 梓、嶋村 雅貴、池ヶ谷 武志、岩間 一浩、福山 綾子、堀口 晴子、西巻 滋、伊藤秀一、経皮ビリルビン測定のための新規ウェアラブル黄疸計の開発 開発機器の臨床的検証、第 58 回日本周産期・新生児医学会、横浜、2022/7
- 3) 小山 裕太郎、三浦 大、小林 徹、鉾崎 竜範、菅沼 栄介、沼野 藤人、古野 憲司、塩野淳子、布施 茂登、深澤 隆治、三谷 義英、冠動脈瘤を伴う川崎病患者のレジストリ研究 KIDCAR、第 58 回日本小児循環器学会、札幌、2022/7
- 4) 杉澤 那津子、若生 百合子、佐橋 美乃里、竹田 奈津美、渡邊 良一、高瀬 昌浩、小林孝輔、塩谷 裕美、只木 弘美、塩田 志乃恵、鎗木 陽一、家庭環境の複雑化によりアドヒアランス不良となった喘息児と父親への地域支援、第 38 回日本小児臨床アレルギー学会学術大会、東京、2022/7
- 5) 竹部 麻美子、血便で発症した *Clostridioides difficile* 腸炎の 2 歳男児の 1 例、第 371 回日本小児科学会神奈川県地方会、2022/9/1
- 6) 小林 孝輔、塩谷 裕美、原 良紀、小笹 浩二、只木 弘美、鎗木 陽一、皮内テストが診断に有用であったクロロニウムアレルギーの 1 例、第 71 回日本アレルギー学会、東京、2022/10
- 7) 原口 翔太郎、伊波 勇輝、尾高 真生、本井 宏尚、渡辺 好宏、アシクロビル投与により意識障害の増悪を認めた小児例、第 77 回日本小児神経学会関東地方会、2022/10、Web
- 8) 小林 孝輔、塩谷 裕美、原 良紀、只木 弘美、ロタウイルスワクチン接種後に血便を認めた新生児・乳児食物蛋白誘発胃腸症の 3 例、第 59 回日本小児アレルギー学会、沖縄、2022/11
- 9) 窪田 祥平、江原 貴子、早野 聡子、只木 弘美、びまん性汎細気管支炎に気管支喘息を合併したと考えられる 13 歳男児例、第 59 回日本小児アレルギー学会、沖縄、2022/11
- 10) 松澤 崇、大杉 康司、竹部 麻美子、松沼 まり、原口 翔太郎、谷川 誠一、涌井 直人、小林孝輔、高橋 篤史、塩谷 裕美、原 良紀、只木 弘美、福山 綾子、鉾崎 竜範、頭部エコー検査により診断、早期介入し得た De Morsier 症候群の一例、第 373 回日本小児科学会神奈川県地方会、横浜、2023/2/1
- 11) 鉾崎 竜範、学校心電図検診で心房中隔欠損症を見落とさないための試み、令和 4 年度横浜市学校心臓検診判定委員会、横浜、2023/3

研究助成金

- 1) 只木 弘美（分担）、稀少アレルゲンによるアナフィラキシーの実態解明と診断法確立に関する研究(H31-NHO(小産)-02)、国立病院機構 NHO ネットワーク研究
- 2) 只木 弘美、小林 孝輔（分担）、乳児期における栄養摂取と湿疹がアレルギー感作に及ぼす影響に関する出生コホート研究(H26-NHO(免疫)-01)、国立病院機構 NHO ネットワーク研究
- 3) 只木 弘美（分担）、反復喘鳴を呈した 1 歳児喘息発症予測スコア作成に関する研究(H29-NHO(免疫)-03)、国立病院機構 NHO ネットワーク研究
- 4) 只木 弘美（分担）、低年齢の通年性アレルギー性鼻炎に対するダニ舌下免疫療法のランダム化比較による有効性の検討(H31-NHO(免疫)-34)、国立病院機構 NHO ネットワーク研究
- 5) 只木 弘美、塩谷 裕美（分担）：Vitamin D による乳児 RS ウイルス感染症後の反復性喘鳴抑制効果の多施設ランダム化 比較試験による検証(R2-NHO(感染)-01)、国立病院機構 NHO ネットワーク研究
- 6) 只木 弘美（分担）、早期新生児期の鶏卵摂取による即時型鶏卵アレルギーの発症予防効果のランダム化比較試験による検証(H29-NHO(成育)-02)、国立病院機構 NHO ネットワーク研究
- 7) 只木 弘美（分担）：気管支ぜん息の発症、増悪予防に関する調査研究「肺音解析を用いた乳幼児の喘息診断の研究」、環境再生保全機構委託業務
- 8) 只木 弘美（分担）：救急医療機関におけるアナフィラキシー患者の実態調査、マイラン EPD 合同会社受託研究
- 9) 小林 孝輔（分担）：反復喘鳴を呈した 1 歳児の喘息発症予測フェノタイプに関する研究(H29-NHO(免疫)-03)、国立病院機構 NHO ネットワーク研究

座長

- 1) 原 良紀、第 374 回日本小児科学会神奈川県地方会、横浜、2023/3/11

産婦人科

地域周産期母子医療センターとして、ハイリスク妊産婦まで幅広い妊婦さんを受け入れています。分娩件数は、出生数減少に伴い当院でも 2016 年度 917 件をピークに減少、現在は約 500 件/年です。NIPT の認証連携施設です。

婦人科では、内視鏡技術認定医ならびに女性ヘルスケア専門医を複数配置し、患者さんの多様なニーズに応える診療を行っています。外来では更年期障害・卵巣機能不全・月経困難症等の管理、手術では腹腔鏡・子宮鏡手術に力を入れています。2022 年度から新部長（婦人科腫瘍専門医、大学院がんプロフェッショナル養成プラン修了）体制となり、高難度悪性腫瘍手術まで安全に行える体制が整いました。JOHBOC 認定協力施設となりましたので、サーベイランス等の診療のご紹介もお待ちしております。

産科、婦人科ともに他科連携によるスムーズな診療を心がけています。今後とも、よろしくお願い申し上げます。



学会・研究会発表

- 1) 萩原 真由美、当院における妊娠中の COVID-19 ワクチンに対する意識調査、第 143 回関東連合産科婦人科学会総会学術集会、2022/6/19
- 2) 萩原 真由美、術前診断が困難であり腹腔鏡手術で診断に至った傍卵巣嚢腫を伴う卵管捻転の一例、第 62 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会、2022/9/8-10
- 3) 魚本 真理、腹腔鏡補助下に整復を試みた子宮筋腫分娩による非産褥性子宮内反症の 1 例、第 143 回関東連合産科婦人科学会総会学術集会、2022/6/19
- 4) 栃尾 梓、両側水腎症を来した巨大な卵巣嚢腫を腹腔鏡補助下摘出した一例、第 436 回神奈川産科婦人科学会学術講演会、2022/7/3
- 5) 最上 多恵、中川 沙綾子、浅野 涼子、新堀 雄大、山本 藤尾、岩泉 しず葉、立花 貴彦、大沼 えみ、齊藤 真、宮城 悦子、榊原 秀也、ジエノゲスト投与によって縮小し子宮鏡下切除したポリープ状異型腺筋腫の 1 例、第 74 回日本産科婦人科学会学術講演会、2022/8/5-7
- 6) 田野島 美城、黒田 晋之介、進藤 亮輔、岩間 一浩、保坂 千秋、浜之上 はるか、山本 晋也、成井 一隆、最上 多恵、三好 康秀、上村 博司、杉森 慎、杉森 一哉、國崎 主悦、宮城 悦子、当院における BRCA 遺伝学的検査の実施状況と課題、第 28 回日本遺伝性腫瘍学会学術集会、2022/6/17-18
- 7) 岩泉 しず葉、浅野 涼子、新堀 雄大、山本 藤尾、立花 貴彦、中川 沙綾子、大沼 えみ、齊藤 真、最上 多恵、榊原 秀也、宮城 悦子、子宮マニピュレーターのバルーン拡張により子宮筋層が損傷し、仮性動脈瘤を生じた一例、第 74 回日本産科婦人科学会学術講演会、2022/8/5-7
- 8) 松永 梨沙、浅野 涼子、梅田 紗世、岩泉 しず葉、立花 貴彦、中川 沙綾子、大沼 えみ、齊藤 真、最上 多恵、榊原 秀也、巨大子宮筋腫が尿管を巻き込んで発育していた症例、第 143 回関東連合産科婦人科学会学術集会、2022/6/19
- 9) 山本 藤尾、最上 多恵、浅野 涼子、岩泉 しず葉、中川 沙綾子、大沼 えみ、榊原 秀也、宮城 悦子、腹腔鏡下に治療し得た腹膜偽粘液腫の一例、第 64 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、2022/7/14-16
- 10) 新堀 雄大、浅野 涼子、山本 藤尾、岩泉 しず葉、立花 貴彦、中川 沙綾子、大沼 えみ、齊藤 真、最上 多恵、榊原 秀也、宮城 悦子、子宮鏡検査および子宮内膜搔爬術で診断できなかった子宮体癌の一例、第 74 回日本産科婦人科学会学術講演会、2022/8/5-7
- 11) 山田 有紀、ルイズ横田 奈朋、山口 聡、長尾 昌二、平嶋 泰之、笠松 由佳、加藤久盛、最上 多恵、小林 浩、宮城 悦子、新規卵巣明細胞癌特異的腫瘍マーカーTFPI2 の診断性能、第 74 回日本産科婦人科学会学術講演会、2022/8/5-7
- 12) 田野島 美城、柊 一哉、飯島 崇善、佐野 泰子、山本 賢史、中西 沙由理、進藤 亮輔、志村 茉衣、小畑 聡一郎、栃尾 梓、葛西 路、安藤 紀子、青木 茂、宮城 悦子、当院の不育症患者の染色体分析の実施状況とその転帰、第 46 回日本遺伝カウンセリング学会学術集会、2022/7/1-3

- 13) 田野島 美城、飯島 崇善、佐野 泰子、山本 賢史、中西 沙由理、進藤 亮輔、岩間 一浩、志村 茉衣、小畑 聡一郎、栃尾 梓、葛西 路、倉澤 健太郎、青木 茂、宮城 悦子、妊娠中2回の静脈血栓塞栓症を起こした胎児18トリソミー症例の遺伝カウンセリング、第62回日本先天異常学会学術集会、2022/7/29-30
- 14) 小畑 聡一郎、山本 賢史、中西 沙由理、志村 茉衣、進藤 亮輔、栃尾 梓、葛西 路、田野島 美城、宮城 悦子、青木 茂、当院で対応した心停止に至った産後過多出血症例の検討、第74回日本産科婦人科学会学術講演会、2022/8/5-7
- 15) 小畑 聡一郎、久保倉 優香、飯島 崇善、斎藤 尚子、佐野 泰子、山本 賢史、中西 沙由理、志村 茉衣、進藤 亮輔、栃尾 梓、葛西 路、田野島 美城、青木 茂、宮城 悦子、分娩後異常出血の搬送例に対するコールシステムの導入、第58回日本周産期・新生児医学会学術集会、2022/7/10-12
- 16) 進藤 亮輔、青木 茂、佐野 泰子、山本 賢史、中西 沙由理、志村 茉衣、小畑 聡一郎、栃尾 梓、葛西路、田野島美城、宮城悦子、「初診時血圧と妊娠高血圧腎症の発症の関連について」、第74回日本産科婦人科学会学術講演会、2022/8/5-7
- 17) 進藤 亮輔、青木 茂、佐野 泰子、山本 賢史、中西 沙由理、志村 茉衣、小畑 聡一郎、栃尾 梓、葛西 路、田野島 美城、宮城 悦子、初診時血圧と妊娠分娩転帰の関連、第58回日本周産期・新生児医学会学術集会、2022/7/10-12
- 18) 中西 沙由理、佐野 泰子、山本 賢史、志村 茉衣、進藤 亮輔、小畑 聡一郎、栃尾 梓、葛西路、田野島 美城、青木 茂、宮城 悦子、False-positive early GDM の妊娠分娩転帰は正常耐糖能妊婦と同じか？、第74回日本産科婦人科学会学術講演会、2022/8/5-7
- 19) 飯島 崇善、小畑 聡一郎、佐野 泰子、中西 沙由理、進藤 亮輔、志村 茉衣、栃尾 梓、葛西路、田野島 美城、宮城 悦子、青木 茂、妊娠高血圧腎症における胎児発育不全の取扱いの検討、第74回日本産科婦人科学会学術講演会、2022/8/5-7
- 20) 久保倉 優香、小畑 聡一郎、柊 一哉、中西 沙由理、進藤 亮輔、志村 茉衣、栃尾 梓、葛西路、田野島 美城、宮城 悦子、青木 茂、新型コロナウイルス感染症の流行が妊産婦に与える精神的ストレスの解析、第74回日本産科婦人科学会学術講演会、2022/8/5-7
- 21) 斎藤 尚子、中西 沙由理、佐野 泰子、山本 賢史、志村 茉衣、進藤 亮輔、小畑 聡一郎、栃尾 梓、葛西 路、田野島 美城、青木 茂、宮城 悦子、妊娠初期のHbA1cは、early onset GDM の診断に有用か？、第74回日本産科婦人科学会学術講演会、2022/8/5-7
- 22) 野口 結、中西 沙由里、小畑 聡一郎、佐野 泰子、山本 賢史、進藤 亮輔、志村 茉衣、栃尾 梓、葛西 路、田野島 美城、宮城 悦子、青木 茂、頻回維持透析の導入により良好な妊娠分娩転帰を得た慢性腎不全合併妊娠の一例、第143回関東連合産科婦人科学会学術集会、2022/6/19

- 23) 土屋 尚輝、小畑 聡一朗、葛西 路、佐野 泰子、山本 賢史、中西 沙由理、志村 茉衣、進藤 亮輔、栃尾 梓、青木 茂、宮城 悦子、子宮破裂から出血性ショックに至り、心停止をきたしたが、集学的治療で合併症なく救命できた一例、第 74 回日本産科婦人科学会学術講演会、2022/8/5-7

その他発表

- 1) 田之井 有華、高山 智子、池部 緋十美、鈴木 沙也香、齊藤 尚子、萩原 真由美、小林 奈津子、栃尾 梓、向田 一憲、最上 多恵、子宮体癌疑いで手術を施行したが大網原発の癌肉腫だった 1 例、第 23 回横浜市南部医療圏産婦人科病院連絡会、2022/12/6
- 2) 最上 多恵、実臨床から卵巣がん治療ガイドラインを紐解く / CQ12 に関して、卵巣がん薬物療法フロンティア、2022/9/7

座長

- 1) 最上多恵、「一般演題. 当院における GnRH アンタゴニスト製剤の使用経験について」第 1 回婦人科疾患 WEB フォーラム in 横浜、2022/11/28

放射線科 治療

業績

なし

放射線科 診断

原著・論文

なし

学会・研究会発表

なし

臨床検査科（医師）

論文、総説

- 1) Ishikawa S, Kudo Y, Miyake S, Akimoto T, Chiba S, Saruta W, Mochizuki T, Shimizu S, Amano Y, Yamamoto R, Amari K, Koyano S, Johkura K, Yamamoto T, Nakai Y
Cerebral foreign body granulomas after mechanical thrombectomy: Two case reports and a review of the literature, Journal of stroke and cerebrovascular diseases(32,3), 2023/Mar
- 2) 田中 玲子、澤住 知枝、木村 活生、多田 美紀子、土井 宏、千葉 佐和子、大谷 方子、上田 直久、田中 章景、稲山 嘉明
神経フェリチン症の肺病変：肺内フェリチン封入体と高度肺気腫を呈した 1 剖検報告、診断病理(39,2,120-125)、2022/4/15

NHO ネットワーク共同研究

- 1) 新野 史
メトトレキサート(MTX)関連リンパ増殖性疾患の病態解明のための多施設共同研究
- 2) 新野 史
メトトレキサート(MTX)関連リンパ増殖性疾患の遺伝子変異プロファイルの解析

救急科

救急総合診療科では救急搬送された患者のほか、中核病院から紹介された重症患者への集学的治療を行う体制をとっています。またドクターカーによる「出かけていく医療」にも力を入れ、救急医・看護師・救急救命士が救急現場や地域の医療機関へ駆けつけ、早期の診療介入を可能としています。救命救急センターというと“生命の切迫した患者”への救命処置の印象がありますが、それだけではありません。超高齢化社会となった現代は“多疾患併存診療”の時代ともいわれ、既往である多疾患が少しずつ悪化した故に患者は救急搬送されます。このような診療では多角的な視点からなる治療を同時に遂行する難しさがありますが、これは集中治療におけるクリティカルシンキングと通ずるものです。日々の濃厚なカンファレンスでテーラーメイドの最適な治療内容を検討しています。当科での治療後は地域の医療機関と連携し、地域医療完結型の救急・集中医療を提供しています。

論文、総説

- 1) [Okano H](#), [Sakuraya M](#), Masuyama T, Kimata S, Hokari S, Respiratory support strategy in adults with acute hypoxemic respiratory failure: a systematic review and network meta-analysis, JA Clinical Reports(1):34-8,1～13,2022 Aug
- 2) [Okano H](#), [Furuya R](#), [Niida S](#), [Minami S](#), [Horiuchi H](#), [Suzuki N](#), [Otsuka T](#), [Miyazaki H](#), Methylprednisolone pulse therapy for critically ill patients with coronavirus disease 2019: A single-center retrospective observational study, Acute medicine & surgery,(1):e782-9,1～7,2022 Sep
- 3) [Okano H](#), [Sakurai R](#), [Yamazaki](#), Steroid Pulse Therapy as a Treatment for Patients With COVID-19 Pneumonia at an Intensive Care Unit: A Single-Center Retrospective Observational Study, Cureus,(3):e36386-15,1～9,2023 March
- 4) [Azusa Sogo](#), [Hiroshi Horiuchi](#), [Takashi Ueda](#), [Hiroshi Miyazaki](#), [Ryosuke Furuya](#), Early-Onset Drug Hypersensitivity Syndrome in a Man With Pneumonia Due to Pre-sensitization to Olanzapine, Cureus,14-6,2022 Jun
- 5) [Hiroshi Horiuchi](#), [Syusuke Utada](#), [Yoshie Shinomiya](#), [Takao Miyagawa](#), [Azusa Sogo](#), [Shoko Niida](#), [Hiromu Okano](#), [Naoya Suzuki](#), [Tsuyoshi Otsuka](#), [Hiroshi Miyazaki](#), [Ryosuke Furuya](#), Chronic Pulmonary Aspergillosis During Convalescence From Severe COVID-19 Treated With Oral Itraconazole: A Report of Two Cases, Cureus,14-7,2022 Jul

- 6) Kota Ueno, Hiroshi Horiuchi, Syusuke Utada, Yoshie Shinomiya, Azusa Sogo, Takao Miyagawa, Shoko Niida, Hiromu Okano, Naoya Suzuki, Tsuyoshi Otsuka, Hiroshi Miyazaki, Ryosuke Furuya, Lemierre's Syndrome as a Sexually Transmitted Disease Due to Porphyromonas asaccharolytica Suspected to Be Caused by Pharyngitis Due to Mycoplasma pneumoniae and Epstein-Barr Virus, Cureus,14-8,2022 Aug
- 7) Hiroshi Horiuchi, Syusuke Utada, Yoshie Shinomiya, Azusa Sogo, Takao Miyagawa, Shoko Niida, Hiromu Okano, Naoya Suzuki, Tsuyoshi Otsuka, Hiroshi Miyazaki, Ryosuke Furuya, Effect of Past Chlamydomonas pneumoniae Infection on the Short-Time Mortality of COVID-19: A Retrospective Cohort Study, Cureus,15-2,2023 Feb
- 8) Yutaro Sakaguchi, Hiromu Okano, Shoko Niida, Hiroshi Horiuchi, Sho Hayakawa, Tsuyoshi Otsuka, Hiroshi Miyazaki, Ryosuke Furuya, A case of hemorrhagic shock in a patient with neurofibromatosis type 1, Clinical Case Reports,(2):e7013-11,2023 Feb

学会・研究会発表

- 1) 古谷 良輔、救急・災害医療の進化 -with/post 震災&COVID- コロナ禍における当院の医療教育手法の工夫と進歩、第 76 回 国立病院総合医学会、2022/10/7
- 2) 大塚 剛、アルコールと高脂血症に伴う重症急性膵炎患者をセボフルランによる吸入麻酔で鎮静管理した一例の報告、第 50 回 日本救急医学会総会・学術集会、2022/10/19
- 3) 堀内 弘司、重症 COVID-19 から回復中に発生しイトラコナゾールで治療を行った慢性肺アスペルギルス症の 2 例、第 70 回 日本化学療法学会総会、2022/6/4
- 4) 早川 翔、ナッツ類の摂取により摂取でんかんが指摘された 1 例、第 50 回 日本救急医学会総会・学術集会、2022/10/19
- 5) 岡野 弘、非侵襲的呼吸補助の適応とその限界：ネットワークメタアナリシスによる考察、第 50 回 日本集中治療医学会学術集会、2023/3/3
- 6) 岡野 弘、Insertion site of central venous catheter among hospitalized adult patients: a systematic review and network meta-analysis、ヨーロッパ集中治療学会、2022/10/25
- 7) 新居田 翔子、潜在性甲状腺機能亢進症と euglycemic DKA を合併し重篤な代謝性アシドーシスをきたした 1 例、第 25 回 日本臨床救急医学会総会・学術集会、2022/5/26
- 8) 新居田 翔子、本年度経験した SGLT-2 阻害薬に関連する正常血糖糖尿病性ケトアシドーシス 4 例の臨床的経過と休薬期間の考察、第 50 回 日本集中治療医学会学術集会、2023/3/2
- 9) 野崎 祐香里、頸部刺創に起因した内径動脈閉塞により脳梗塞を合併した 1 症例、第 50 回 日本救急医学会総会・学術集会、2022/10/19
- 10) 野崎 祐香里、肝硬変患者に生じた大腸菌単一菌による複数部位に同時発症した壊死性筋膜炎の一例、第 50 回 日本集中治療医学会学術集会、2023/3/2
- 11) 森 貴昭、鋭的消化管異物に対し内視鏡的治療保存的治療が奏功した 1 例、第 50 回 日本救急医学会総会・学術集会、2022/10/21

- 12) 森 貴昭、ショックを呈した十二指腸球部潰瘍出血に対し Interventional radiology で止血が得られた 1 例、第 59 回 日本腹部救急医学会総会、2023/3/10
- 13) 坂口 裕太郎、ショックで搬送された神経線維腫症 1 型の腫瘍出血の一例、第 76 回 国立病院総合医学会、2022/10/7
- 14) 坂口 裕太郎、破傷風患者に対して AnaCona®を用いたセボフルランによる鎮静管理を行った 1 例、第 50 回 日本救急医学会総会・学術集会、2022/10/19
- 15) 坂口 裕太郎、周術期心停止の原因として硬膜外カテーテルの誤留置が疑われた一例、第 50 回 日本集中治療医学会学術集会、2023/3/3
- 16) 江藤 龍一、Streptococcus constellates による海綿静脈洞血栓症の一例、第 50 回 日本救急医学会総会・学術集会、2022/10/19
- 17) 宮川 岳雄、当院における COVID-19 肺炎の肥満患者(BMI $\geq$ 30)の治療経過の検討、第 50 回 日本集中治療医学会学術集会、2023/3/3
- 18) 松本 雪菜、肺塞栓による心肺停止蘇生後に V-AECMO を使用し、その後脊髄仙塞を発症した一例、日本集中治療医学会 関東甲信越支部学術集会、2022/7/16
- 19) 悦田 咲季子、当初は症候性てんかんが疑われた脾摘後 Capnocytophaga canimorus 菌血症の一例、第 76 回 国立病院総合医学会、2022/10/7
- 20) 蒲谷 美紀、失語症との鑑別が必要であった破傷風の一例、第 76 回 国立病院総合医学会、2022/10/7
- 21) 山本 智大、気管支結核により重度無気肺を呈した 30 代女性の一例、第 76 回 国立病院総合医学会、2022/10/7
- 22) 平本 雅也、肺塞栓による心肺停止蘇生後に V-AECMO を使用し、その後脊髄仙塞を発症した一例、第 76 回 国立病院総合医学会、2022/10/7
- 23) 吉田 敦、負の探求：医療機関で雇用される救急救命士の現状と今後（救急救命士法改正をうけて）病院救急救命士が担う業務と他職種連携における課題、第 25 回 日本臨床救急医学会総会・学術集会、2022/5/27
- 24) 平 茉希子、病院前救護、初期診療、集中管理でシームレスに関わるドクターカー看護師、成功体験がやりがいになる、第 25 回 日本臨床救急医学会総会・学術集会、2022/5/27

講演

- 1) 古谷 良輔、泉区医療関係者のための防災研修会、2023.2.16、泉区
- 2) 岡野 弘、肺塞栓を防げ！COVID-19 への抗凝固療法に推奨提示、2022.10.1、東京(WEB)
- 3) 岡野 弘、ARDS 患者には気管挿管か非侵襲的呼吸補助か？、2022.10.15 東京(WEB)
- 4) 岡野 弘、第 50 回日本救急医学会総会・学術集会、共催セミナー、2022.10.21 東京
- 5) 岡野 弘、レミフェンタニル ～超短時間作用型 オピオイドの魅力～Pain Live Symposium- 周術期～慢性期における痛みの管理を再考する-、2023.1.27 戸塚(WEB)

研修の講演

- 1) 大塚 剛、吉田 敦、EMIS 操作研修、2022.12.8 戸塚区
- 2) 大塚 剛、吉田 敦、戸塚区医療救護隊訓練～トリアージに関する講義及び演習～、2023.2.9 戸塚区

パネリスト

- 1) 大塚 剛、エキスパートが切り開く!!、第2回救急・集中治療領域の栄養管理、2022.12.12(WEB)

講習会

- 1) 堀内 弘司、当院の抗菌薬使用状況を踏まえた抗菌薬適正使用に関して、院内大型研修、医療安全、2022.9.15 横浜医療センター
- 2) 堀内 弘司、救急隊の感染対策に関して、令和4年度救急隊症例検討会、2023.2.21 横浜医療センター

セミナー

- 1) 吉田 敦、ドクターカーの運用状況と症例発表、横浜市ドクターカー合同セミナー、2023.3.24 横浜

座長

- 1) 望月 聡之、第59回日本腹部救急医学会総会、一般演題25、外傷8、2023.3.9 沖縄

外科

本年度から専攻医 1 年目 2 人と乳腺専門医が 1 人加わって計 12 人で診療しています。

8 人の外科専門医（7 人が消化器外科専門医）のうち 3 名が内視鏡外科技術認定医、2 名が肝胆膵外科高度技能医で、大腸癌、胃癌に対する腹腔鏡下手術、質の高い肝胆膵手術を積極的に行っています。また、急性虫垂炎、両側・再発鼠径ヘルニア、急性胆嚢炎を伴った胆嚢結石症に対しても、可能な限り低侵襲な腹腔鏡下手術を行っています。

長年、不在であった乳腺専門医が、本年 4 月より常勤で赴任し、これまで以上に乳腺診療に尽力して参ります。

術後、癌が再発した患者さんに対しても、化学療法センター、放射線治療科、緩和ケア内科とともに、親身になった診療を行って参りますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



論文、総説

- 1) Asada T, Nakahata S, Fauji YR, Ichikawa T, Inoue K, Shibata N, Fujii Y, Imamura N, Hiyoshi M, Nanashima A, Morishita K、Integrin $\alpha 6 A$ (ITGA6A)-type splice variant in extracellular vesicles has a potential as a novel marker of the early recurrence of pancreatic cancer, Anticancer Research (42,4, 1763-1775, 2022/3/2

学会・研究会発表

- 1) 柿添 学、大腸 SM 癌に対する外科的追加切除の臨床学的検討、第 77 回日本消化器外科学会総会、2022/7/20
- 2) 藤原 大樹、腹腔鏡下大腸切除術の小開腹創における筋膜連続縫合閉鎖の検討、第 77 回日本消化器外科学会総会、2022/7/20
- 3) 木村 準、高齢者胃癌に対する開腹胃全摘術の治療成績、第 77 回日本消化器外科学会総会、2022/7/21
- 4) 矢澤 慶一、手術を行い無再発経過中である肉腫様変化を伴った(いわゆる癌肉腫)遠位胆管癌の 1 例、第 77 回日本消化器外科学会総会、2022/7/21
- 5) 大石 裕佳、当院における高齢者大腸癌患者の短期手術成績の検討、第 77 回日本消化器外科学会総会、2022/7/22
- 6) 松本 雪菜、プロテイン S 欠損症患者に対するダビガトラン継続下の腹腔鏡下大腸切除術の経験、第 76 回国立病院総合医学会、2022/10/7
- 7) 柿添 学、直腸癌に対する術前化学放射線療法の導入とその短期成績、第 76 回国立病院総合医学会、2022/10/8
- 8) 後藤 晃紀、閉塞性大腸癌に対する大腸ステントの治療成績 (YCOG2101)、第 84 回日本臨床外科学会総会、2022/11/24

呼吸器外科

横浜医療センター呼吸器外科は、原発性肺癌をはじめ、気胸、膿胸、胸部外傷、転移性肺癌、縦隔腫瘍などの疾患を対象に、根治性と QOL とのバランスを最大限考慮した胸腔鏡手術を行っています。肺癌に関しては、呼吸器内科、放射線科とともに、毎週カンファレンスを開催して治療方針を決定しており、気胸や胸部外傷に対しては、救急科との間で緊密に連携を図りながら、積極的に受け入れを行うよう努めております。

また当科は、日本呼吸器外科学会専門研修連携施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設として、専門的な医療の提供を心がけているほか、将来の医療の発展のために、肺癌の再発抑制を目的とした特定臨床研究（FLAX study）をはじめ、複数の臨床研究に積極的に参加しております。

論文、総説

- 1) K. Watanabe, H. Masuda, D. Noma, Anesthetic and analgesic techniques, and perioperative inflammation may affect the timing of recurrence after complete resection for non-small-cell lung cancer, *Frontiers in surgery* (9), 2022/7
- 2) K. Watanabe, D. Noma, H. Masuda, M. Masuda, Preoperative inflammation-based scores predict early recurrence after lung cancer resection. *J Thorac Dis*, 13: 2812-23, 2021

学会発表

- 1) 古賀 大靖、禹 哲漢、永島 琢也、菅野 健児、木越 宏紀、内田 敬二、安田 章沢、利野 靖、Transmanubrial approach 併用胸骨正中切開で切除し得た左右腕頭静脈・上大静脈浸潤を伴う胸腺癌の 1 例、第 39 回日本呼吸器外科学会学術集会、2022/5/20
- 2) 山崎 龍人、諸星 隆夫、根本 大士、菅原 海、津浦 幸夫、矢毛石 真由美、利野 靖、肺血管周囲類上皮細胞腫（PEComa）の 1 切除例、第 84 回日本臨床外科学会総会、2022/11/25

研究会

- 1) 渡部 克也、臨床試験報告（FLAX study）、第 77 回 Y.L セミナー 横浜、2022/6

整形外科

令和4年度の整形外科平均在院患者数は43.4人、手術件数817件でした。三次救急病院であり、開放骨折や脊椎骨折を含め、骨折の急性期手術が228件ありました。脊椎が218、人工膝関節が43、人工股関節が61、高位脛骨骨切り術が5、骨軟部腫瘍53（うち悪性2）でした。近隣の戸塚区、泉区、栄区、藤沢市の開業医の先生方からの紹介が多くありました。コロナ禍でいろいろな会が開催できなくなりましたが、骨粗鬆症や脊椎疾患に関する講演会を計4回WEBで開催しました。令和4年度はコロナのクラスターが病棟で発生するなど、大変な1年でした。また令和4年度に開設した手外科専門外来も患者数が伸びてきております。今後も地域の中核病院として他の病院、診療所と連携をはかりながら頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。



前列左から堀、中村、伊藤。後列左から山根、渡邊、日塔、若山、宮川。

学会・研究会発表

- 1) 小澤 祐樹、日塔 寛昇、渡邊 竜樹、佐藤 雅経、伊藤 りえ、堀 莉彩、倉澤 美帆、大山 格、
足関節底屈強制による前脛骨筋腱皮下断裂の1例、第176回神奈川整形災害外科研究会、
2022/11/19 横浜

講演

- 1) 小澤 祐樹、膿性脊椎炎の診断と治療. Orthopaedic Web Seminar. 2022年7月6日.
- 2) 伊藤 りえ、骨遠位端骨折 up to date. 横浜西部骨粗鬆症ネットワーク. 2022年11月9日. 横浜
- 3) 日塔 寛昇、脊椎疾患の治療～特に神経障害性疼痛について～. Pharmacist Web Seminar. 2022年12月14日.
- 4) 堀 莉彩、気生理学的検査の実際. Orthopaedic Web Seminar. 2023年2月22日.

パネリスト

- 1) 日塔 寛昇、社会課題として見る時の繰り返す骨折 ～傾向と対策～. Asahi Osteoporosis Online Seminar@湘南. 2022年3月30日. 藤沢

座長

- 1) 日塔 寛昇、Orthopaedic Web Seminar. 2023年2月22日.

研究会主催

- 1) 日塔 寛昇、Orthopaedic Web Seminar. 2022年7月6日.
- 2) 日塔 寛昇、横浜西部骨粗鬆症ネットワーク. 2022年11月9日. 横浜
- 3) 日塔 寛昇、Orthopaedic Web Seminar. 2023年2月22日.

形成外科

形成外科が専門に扱う領域は、日本形成外科学会の分類によると、以下の11項目です。

1. 新鮮熱傷
2. 顔面骨骨折・顔面軟部組織損傷
3. 唇裂・口蓋裂*
4. 手・足の先天異常・外傷*
5. その他の先天異常
6. 母斑・血管腫・良性腫瘍
7. 悪性腫瘍・再建
8. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド
9. 褥創・難治性潰瘍
10. 美容外科* (*は当院では行っていません)
11. その他

形成外科では、体表より知ることのできる腫瘍、外傷、変形などを外科的な手技（切る・縫うなど）をもちいて治療しています。

形成外科の特徴は、疾患を治すことはもちろんですが、手術に伴う傷跡を極力目立たなくするような治療を行うことです。傷を全く無くすことは不可能ですが、傷跡が気になる場合にはご相談ください。

学会・研究会発表

- 1) 和唐 純平、横濱医療センターにおける超音波検査、第25回北里形成外科フォーラム、2022/10/8

脳神経外科

脳神経外科は常勤医 8 名と神奈川県下の市中病院では最大規模の人数です。2022 年の年間入院数は 909 名、手術件数は 475 件でした。脳血管障害、脳腫瘍の 2 大疾患の週 3 回の予定手術のほか、脳卒中や重症頭部外傷などの緊急手術にも迅速に対応できるように心がけています。近隣のクリニックや病院からの紹介や救急車の搬送要請も原則断らない診療体制の構築と、安全良質な医療を提供するようにしています。また R4 年度から YouTube で患者さん向けの脳神経外科疾患の案内を送っています。当科ホームページを是非ご覧ください。



論文・総説

- 1) 鈴木 幸二、深部硬膜縫合のポイントとピットフォール、脳神経外科(50 巻、3 号、663～670 ページ)、2022 年 6 月 10 日発行
- 2) 鈴木 幸二、年齢を考慮した非機能性下垂体腺腫のマネージメント、糖尿病・内分泌代謝科(55 巻、3 号、292～300 ページ)、2022 年 9 月 28 日発行

学会・研究発表会

- 1) 宮原 宏輔、岡田 富、谷野 慎、瓜生 康浩、田中 悠介、関口 徳朗、野田 尚志、大友 優太、岡本 楓、市川 輝夫、藤津 和彦：再発内側蝶形骨縁髄膜腫に対する手術アプローチ。第 31 回脳神経手術と機器学会、東京、2022 年 4 月 16 日
- 2) 宮原 宏輔、岡田 富、谷野 慎、瓜生 康浩、田中 悠介、関口 徳朗、野田 尚志、岡本 楓、宮田 知昌、市川 輝夫、藤津 和彦：大型内側蝶形骨縁髄膜腫に対する手術手技。第 34 回日本頭蓋底外科学会、東京、2022 年 7 月 8 日
- 3) 宮原 宏輔、岡田 富、谷野 慎、瓜生 康浩、田中 悠介、鈴木 幸二、関口 徳朗、野田 尚志、岡本 楓、宮田 知昌、市川 輝夫、藤津 和彦：再発内側蝶形骨縁髄膜腫に対する手術法。第 81 回日本脳神経外科学会学術集会、横浜、2022 年 9 月 29 日
- 4) 宮原 宏輔、岡田 富、谷野 慎、瓜生 康浩、田中 悠介、鈴木 幸二、関口 徳朗、野田 尚志、岡本 楓、宮田 知昌、市川 輝夫、藤津 和彦：大型内側蝶形骨縁髄膜腫に対する手術手技。第 27 回脳腫瘍の外科学会、東京、2022 年 10 月 15 日
- 5) 宮原 宏輔、岡田 富、谷野 慎、瓜生 康浩、田中 悠介、鈴木 幸二、関口 徳朗、野田 尚志、鴨川 美咲、宮田 知昌、市川 輝夫、藤津 和彦：傍正中血管病変に対する posterior transpetrosal approach の有用性。第 52 回日本脳卒中の外科学会学術集会、横浜、2023 年 3 月 18 日
- 6) 谷野 慎、宮原 宏輔、岡田 富、瓜生 康浩、田中 悠介、関口 徳朗、野田 尚志、大友 優太、岡本 楓、市川 輝夫、藤津 和彦：手術室における我々の Set up と手技の工夫～頭蓋底髄膜腫、海綿静脈洞侵入を要する手術において～、第 31 回脳神経外科手術と機器学会、シンポジウム、東京、2022 年 4 月 15 日
- 7) 谷野 慎、宮原 宏輔、岡田 富、瓜生 康浩、田中 悠介、関口 徳朗、野田 尚志、岡本 楓、宮田 知昌、市川 輝夫、藤津 和彦：手術室における我々の Set up と手術手技の工夫～特に hypervascular skull base meningioma 手術において～、第 34 回日本頭蓋底外科学会、東京、2022 年 7 月 7 日
- 8) 谷野 慎、宮原 宏輔、岡田 富、瓜生 康浩、田中 悠介、鈴木 幸二、関口 徳朗、野田 尚志、岡本 楓、宮田 知昌、市川 輝夫、藤津 和彦：頭蓋底腫瘍に対する剥離と止血のこだわり、第 27 回脳腫瘍の外科学会、東京、2022 年 10 月 15 日
- 9) 谷野 慎、宮原 宏輔、岡田 富、瓜生 康浩、田中 悠介、鈴木 幸二、関口 徳朗、野田 尚志、鴨川 美咲、宮田 知昌、市川 輝夫、藤津 和彦：頭蓋底腫瘍摘出に対する哲学とこだわり、第 34 回神奈川脳神経外科手術手技研究会、2023 年 1 月 28 日
- 10) 瓜生 康浩、宮原 宏輔、谷野 慎、田中 悠介、鈴木 幸二、関口 徳朗、野田 尚志、岡本 楓、宮田 知昌：四丘体槽から迂回槽病変に対する対側からの内視鏡下後頭部経テント到達法 endoscopic contralateral occipital transtentorial approach for lesions in the quadrigeminal cistern and ambient cistern、日本脳神経外科学会第 81 回学術総会、横浜、2022 年 9 月 28 日～11 月 30 日

- 11) 瓜生 康浩、宮原 宏輔、谷野 慎、田中 悠介、鈴木 幸二、関口 徳朗、野田 尚志、岡本 楓、宮田 智昌：四丘体槽から迂回槽病変に対する対側からの occipital transtentorial approach endoscopic contralateral occipital transtentorial approach for lesions in the quadrigeminal cistern and ambient cistern、第 29 回日本神経内視鏡学会、軽井沢、2022 年 11 月 3 日
- 12) 瓜生 康浩、宮原 宏輔、谷野 慎、田中 悠介、鈴木 幸二、関口 徳朗、野田 尚志、鴨川 美咲、宮田 智昌：長期の Gender-affirming hormone treatment (GAHT)後に症候性 prolactinoma を生じた 1 例、第 33 回間脳下垂体腫瘍学会、沖縄、2023 年 3 月 4 日
- 13) 鈴木 幸二、田原 重志、服部 裕次郎、森田 明夫：下垂体腺腫に合併した転移性下垂体腺腫の一例、第 33 回 間脳・下垂体・副腎系研究会、東京、2022 年 4 月 9 日
- 14) 鈴木 幸二、田原 重志、服部 裕次郎、石坂 栄太郎、福田 いずみ、杉原 仁、森田 明夫：クッシング病に対し内視鏡下経鼻的手術後寛解が得られたが 44 ヶ月で再燃し Osilodrostat が有効であった一例、第 94 回日本内分泌学会学術総会、2022 年 6 月 3 日
- 15) 鈴木 幸二、田原 重志、服部 裕次郎、石坂 栄太郎、瓜生 康浩、森田 明夫：著明な視路の浮腫性変化を呈した下垂体細胞腫の一例、第 34 回日本頭蓋底外科学会、東京、2022 年 7 月 7 日
- 16) 鈴木 幸二、田原 重志、服部 裕次郎、石坂 栄太郎、寺本 紳一郎、瓜生 康浩、宮原 宏輔、井野元 智恵、長村 義之、森田 明夫：TSH 産生下垂体腫瘍の臨床病理学的特徴と長期成績、第 81 回日本脳神経外科学会学術総会、横浜、2022 年 9 月 23 日
- 17) 鈴木 幸二、田原 重志、服部 裕次郎、石坂 栄太郎、寺本 紳一郎、瓜生 康浩、宮原 宏輔、井野元 智恵、長村 義之、森田 明夫：TSH 産生下垂体腫瘍の臨床病理学的特徴と長期成績、第 29 回日本神経内視鏡学会、軽井沢、2022 年 11 月 3 日
- 18) 鈴木 幸二、田原 重志、服部 裕次郎、石坂 栄太郎、寺本 紳一郎、瓜生 康浩、宮原 宏輔、井野元 智恵、長村 義之、森田 明夫：TSH 産生下垂体腫瘍の臨床病理学的特徴と長期成績、第 33 回日本間脳下垂体腫瘍学会、沖縄、2023 年 3 月 3 日
- 19) 野田 尚志、宮原 宏輔、岡田 富、谷野 慎、瓜生 康浩、田中 悠介、鈴木 幸二、関口 徳朗、鴨川 美咲、宮田 知昌、市川 輝夫、藤津 和彦：翼口蓋神経節の経鼻内視鏡下神経生検により IgG4 関連眼疾患の診断に至った一例、第 29 回一般社団法人日本神経内視鏡学会、2022 年 11 月 4 日
- 20) 野田 尚志、宮原 宏輔、岡田 富、谷野 慎、瓜生 康浩、田中 悠介、鈴木 幸二、関口 徳朗、鴨川 美咲、宮田 知昌、市川 輝夫、藤津 和彦：経橈骨動脈アプローチを使用した Flow diverter 治療の経験、第 4 回経橈骨動脈脳血管内治療研究会 (TRN 研究会)、2023 年 3 月 4 日
- 21) 宮田 知昌、宮原 宏輔、岡田 富、谷野 慎、瓜生 康浩、田中 悠介、鈴木 幸二、関口 徳朗、野田 尚志、岡本 楓、市川 輝夫、藤津 和彦：感染性を危惧され、治療開始に時間を要した ANCA 関連肥厚性硬膜炎の一例、第 148 回日本脳神経外科学会関東支部学術集会、2022 年 9 月 3 日

- 22) 宮田 知昌、宮原 宏輔、岡田 富、谷野 慎、瓜生 康浩、田中 悠介、鈴木 幸二、関口 徳朗、野田 尚志、岡本 楓、市川 輝夫、藤津 和彦：被殻出血に対して緊急手術後に経口摂取可能となり回復期へ転院となった 57 歳男性、第 25 回横浜脳卒中・リハ連携研究会、2022 年 9 月 28 日
- 23) 宮田 知昌、宮原 宏輔、岡田 富、谷野 慎、瓜生 康浩、田中 悠介、鈴木 幸二、関口 徳朗、野田 尚志、岡本 楓、市川 輝夫、藤津 和彦：小児脳動静脈奇形の臨床的特徴について、日本脳神経外科学会 第 81 回学術総会、2022 年 9 月 28 日～10 月 1 日
- 24) 宮田 知昌、宮原 宏輔、岡田 富、谷野 慎、瓜生 康浩、田中 悠介、鈴木 幸二、関口 徳朗、野田 尚志、鴨川 美咲、市川 輝夫、藤津 和彦：頭部外傷に対する急性期・慢性期医療連携、第 26 回横浜脳卒中・リハ連携研究会、2022 年 12 月 7 日
- 25) 宮田 知昌、宮原 宏輔、岡田 富、谷野 慎、瓜生 康浩、田中 悠介、鈴木 幸二、関口 徳朗、野田 尚志、鴨川 美咲、市川 輝夫、藤津 和彦：小児脳動静脈奇形の臨床的特徴について:STROKE2023、2023 年 3 月 14 日

座長・講演

- 1) 宮原 宏輔：第 148 回 日本脳神経外科学会関東支部学術集会 腫瘍(良性)部門 2022 年 9 月 3 日
- 2) 宮原 宏輔：横浜脳神経外科研究会 第 1 回学術集会 後期レジデント部門発表 第一部 2022 年 12 月 10 日
- 3) 宮原 宏輔：地域でささえるてんかん診療 -急性期病院・かかりつけ医の役割について-、てんかんの地域連携を考える in 横浜、横浜、2023 年 2 月 17 日
- 4) 宮原 宏輔：Spasm Forum in Yokohama 2023 年 3 月 1 日
- 5) 田中 悠介：脳脊髄医療連携 Web セミナー、血栓回収療法の実践、2022 年 10 月 12 日
- 6) 田中 悠介：BASICS2022、「内頸動脈大型動脈瘤に対してバルーンガイディングカテーテルを使用した suction and decompression 併用下で clipping を行った 1 例」、2022 年 10 月 14 日
- 7) 田中 悠介：第 23 回 NPO 法人日本脳血管内治療学会関東地方会学術集会、Daily web live seminar・A、Pipeline™～駆け出し施行医の挑戦～、2023 年 1 月 31 日
- 8) 田中 悠介：第 27 回神奈川脳神経外科集談会、Pipeline 駆け出しの実施医の遭遇した高難度症例、2022 年 2 月 24 日
- 9) 野田 尚志：内頸動脈瘤に対して Balloon catheter を使用した Suction decompression 併用下で clipping を行った 4 例、神奈川脳神経外科施設会セミナー2022、2022 年 5 月 21 日
- 10) 野田 尚志：血栓回収療法の現状、横浜南西部 PSC Web Seminar、2022 年 10 月 13 日

心臓血管外科

横浜医療センター心臓血管外科では大動脈瘤に対する人工血管置換術、並びにステントグラフト内挿術（胸部・腹部大動脈）、弁膜症に対する弁形成・弁置換術、虚血性心疾患に対する冠動脈バイパス術、下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術、下肢動脈虚血(ASO)に対する血行再建術や慢性腎不全患者に対するシャント造設術を含めた末梢血管手術などを行っています。

これからも心臓血管外科専門医認定機構の基幹施設として、この地域の心臓血管外科治療に尽力し、手術適応ガイドラインを遵守した、安定した治療成績を提供できるよう努めて参ります。

学会・研究会発表

- 1) 佐藤 大樹、血栓閉塞型スタンフォード A 型急性大動脈解離に対する治療戦略、第 53 回日本心臓血管外科学会学術総会、2023/3/23

皮膚科

業績

なし

泌尿器科

現在のスタッフ構成は常勤 4 名および非常勤 1 名です。

昨年に続き尿路結石の治療件数が高い水準で推移しておりますが、手術療法の中心は泌尿器悪性腫瘍の低侵襲手術に据えております。

令和 4 年には腹腔鏡下膀胱癌摘出術を施行開始いたしました。

また最近の変化として、尿路悪性腫瘍における免疫チェックポイント阻害薬の保険適応が立て続けに通過し、外来化学療法件数の増加がみられております。

安全な外来治療維持のため、化学療法室・薬剤科・検査科など各部門のご協力をいただきつつ対応してまいります。

論文、総説

- 1) Urabe F, Matsuzaki J, Takeshita F, Kishida T, Ochiya T, Hirai K, Independent verification of circulating miRNA as diagnostic biomarkers for urothelial carcinoma, Cancer Science(113,10,3510-3517), 2022/Oct
- 2) M Takanashi, H Ito, T Fukazawa, R Shinoki, T Tabei, T Kawahara, K Kobayashi, Predictive factors for the success of trial catheter removal for women with urinary retention, Low Urin Tract Symptoms(15,1,4-10), 2023/Jan

学会・研究会発表

- 1) 高梨 将人, Predictive factors for the success of trial catheter removal for women with urinary retention International Continence Society(Vienna,2022)、2022/9/9
- 2) 今野 真思、当院における骨転移を有する去勢抵抗性前立腺癌に対する塩化ラジウム-223 の使用経験、第 74 回西日本泌尿器科学会総会（北九州,2022.11）、2022/11/2
- 3) 高梨 将人、急速な進行を示した 腎扁平上皮癌の一例、第 66 回 日本泌尿器科学会神奈川地方会、2023/2/9

眼科

横浜医療センター眼科は、質の高い眼科医療の提供を目指し、地域医療に貢献するため診療を行っております。2023 年現在、常勤医師 5 名、非常勤医師 2 名、視能訓練士 2 名、メディカルアシスタント 1 名が在籍しております。

眼科全般の診療を行っておりますが、扱いの多い分野は白内障手術・硝子体手術・斜視手術・眼瞼手術となっております。手術の低侵襲化を実現し、入院期間が短縮され日帰り手術も積極的に行っております。月曜日から金曜日まで毎日手術は行っており、2022 年の手術件数は 2187 件でした。

外来診療は月曜日から金曜日まで 2 診体制で行っております。1 日の外来患者数は平均 50 名程度で、緊急性のある患者さんへの対応も行っております。

今後も臨床に磨きをかけ地域医療に貢献して参ります。

学会・研究会発表

- 1) 宮部 幸世、乳頭ピット黄斑症候群に対し、ILM シートを用いピット閉鎖蓋を行った 3 症例、第 810 回東京眼科集会、2022/11/10
- 2) 真尾 宏樹、網膜中心静脈閉塞症から血管新生緑内障が発症した典型的な 1 例、東邦大学学術研究会、2022/10/19
- 3) 宮部 幸世、眼窩先端症候群を呈した多発血管炎性肉芽腫症による肥厚性硬膜炎の 1 例、東邦大学学術研究会、2022/12/22
- 4) 真尾 宏樹、網膜中心静脈閉塞症から血管新生緑内障が発症した典型的な 1 例、東邦大学学術研究会、2022/10/19、ウェブ開催
- 5) 宮部 幸世、眼窩先端症候群を呈した多発血管炎性肉芽腫症による肥厚性硬膜炎の 1 例、東邦大学学術研究会、2022/12/22、ウェブ開催

座長

- 1) 木村 正彦

講演会名：Yokohama V&A Seminar

会場：中外製薬株式会社横浜オフィス会議室（ハイブリッド開催）

日時：2022 年 10 月 26 日(水)19:00-20:10

演題：実臨床下での黄斑疾患に対するバビースモ硝子体注射という選択肢

演者：森隆三郎

歯科口腔外科

歯科口腔外科では、抜歯、嚢胞、顎関節疾患、口腔粘膜疾患、良性・悪性腫瘍などあらゆる口腔外科疾患に対応しています。再建が必要な口腔癌症例につきましては横浜市立大学附属病院歯科口腔外科と連携して対応しています。また、他診療科の手術症例に対する口腔機能管理、がん薬物療法患者の口腔有害事象対策を通して術後合併症の低下、治療中断の減少に努めています。週 1 回の口腔ケアラウンドでは口腔管理の困難な症例の抽出と口腔ケア方法の指導も行っています。さらに NST 摂食・嚥下チームに参加して機能評価と治療に取り組んでいます。

写真説明：顎骨腫瘍摘出術



著書

- 1) 根岸明秀、1 周術期における口腔ケア. 第 12 章がん患者に対する口腔ケア. 介護福祉士のための口腔ケアマニュアル. (公社)日本介護福祉士会, (一社)日本口腔ケア学会監修. 口腔保健協会. 第 1 版, 東京. 138-139, 2022.
- 2) 横尾 聡、山口高広、鈴木啓祐、清水崇寛、小川 将、高山 優、根岸明秀、青木大地、牧口貴哉：再建は何を使うかではなく、どう使うかである. 一般臨床家、口腔外科のための口腔外科ハンドマニュアル'22. クインテッセンス出版, 99-107, 2022.

講演

- 1) 根岸明秀、周術期口腔機能管理の minimum requirement、九州周術期口腔管理セミナー、2022/10/4 長崎
- 2) 根岸明秀、口腔粘膜疾患と口腔がん・周術期口腔機能管理の minimum requirement、2022 年度戸塚区口腔粘膜疾患等啓発事業（WEB 開催）、2023/2/24

座長

- 1) 第 19 回口腔ケア学会総会・学術大会 一般口演 6「症例報告 2/取り組み 1」（2022/4/23）

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）

- 1) 下郷 麻衣子、他 5 名、機械学習を用いた口腔状態評価の標準化と終末期口腔ケア向上プログラムの開発

耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科は聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室を基幹施設とする専門研修プログラムの連携施設として、同教室からの専攻医派遣を受け診療を行っております。現在は常勤医2名体制です。耳鼻咽喉科全般の診療が可能です。手術が必要な頭頸部腫瘍の方は主に横浜市立大学附属市民総合医療センター、神奈川県立がんセンター、藤沢市民病院などに紹介を行い、加療をお願いしております。

写真は常勤医2名（前、後左）と、当科所属のMAです。



学会・研究会発表

- 1) 小池 遥介、西本 寛志、佐々木 祐幸、小森 学、甲状腺眼症に対して内視鏡下眼窩減圧術が有効であった1例、第84回耳鼻咽喉科臨床学会、2022/7/8

麻酔科

常勤麻酔科医 10 名と非常勤麻酔科医で年間約 3300 件の麻酔科管理を施行しています。手術室 8 室と血管内治療室 1 室を効率的に運用し、ご紹介いただいた患者さんが速やかに手術を受けられるよう努力しています。

心臓血管麻酔学会認定医 1 名 心臓血管麻酔学会指導医 1 名 周術期経食道エコー認定 (JB-POT) 4 名 区域麻酔認定 J-RACE 1 名 集中治療医学会専門医が在籍し、安全な手術・麻酔・周術期管理、快適な術後を目指しています。

また平日は夜間も院内に常駐し、各科の緊急手術に迅速に対応しています。

論文、総説

- 1) 山田 宏、PICC カテーテル先端位置の自然移動：移動時の先端形状を 3D-CT で確認した 1 例、臨床麻酔(46,9,1207-1208)、2022/9/20

学会・研究会発表

- 1) 山田 宏、桑原 香折、神経刺激装置を併用した peripherally inserted central catheter 挿入の試み、第 50 回日本集中治療医学会学術集会、2023/3/2

緩和ケア内科

緩和ケア内科では、主のがんによる不快な症状と、各種慢性痛の治療を行っています。

がんの治療や病状の進行に伴う痛み、痛み以外の様々な辛い症状（手足のしびれ・呼吸困難感・倦怠感・嘔気等）にお悩みの患者さんに、薬物治療や認定看護師によるケアを行うと同時に、不眠・不安・抑うつなどの精神症状に対しては、緩和ケア担当の精神科医師や看護師、臨床心理士と連携し、治療と社会生活が両立できるよう支援しています。

症状緩和以外の機能としては、がん相談支援センターと連携し、がんの患者さんを介護するご家族の悩みに対する相談支援を行い、在宅療養支援、公的サービス、緩和ケア病棟の紹介等を実施しています。治療やカウンセリングを通して、ご病気のあらゆる段階において、がんとうまくつきあい、ご自身らしく過ごすためのお手伝いをします。

また、最近では心不全で入院中の患者さんに対する緩和医療にも力を入れています。主に呼吸困難感などの症状緩和となりますが、精神科スタッフとも連携して対応しています。

ペインクリニックとして慢性痛の患者さんの治療も行っております。こちらは、補助的に投薬治療をしながら、身体の機能維持と、生活の質の向上といった目標に向けてお手伝いをいたします。

研修会

- 1) 中橋 勇典、2022 年度 横浜医療センター緩和ケア研修会、2022/12/11、企画責任者

臨床研究部

治験管理室

当院では、現在、糖尿病内分泌内科、呼吸器内科、皮膚科、消化器内科、外科、膠原病リウマチ内科、小児科、脳神経外科、精神科、救急科、循環器内科、泌尿器科、脳神経内科と複数科での多岐にわたる疾患の治験を実施しており、年々治験実施件数は増えてきている状況にあります。治験管理室では、患者さんの安全を第一に、院内で治験が適切かつ安全に行われるよう医師、患者さんだけでなく、院内の治験に関わる全ての部署のコーディネート業務や IRB の事務局業務を行っています。

今後も院内の関連部署の協力を得ながら多くの治験を行い、患者さんにとってより良い新薬が届けられるよう貢献していきたいと考えております。

業績

なし

薬剤部

横浜医療センター薬剤部は、薬剤部長以下薬剤師 26 名、業務技術員 6 名で構成され、医薬品の供給・管理、適正使用支援を行っています。具体的にはいわゆる調剤業務に加え、抗がん剤や中心静脈栄養輸液の無菌調製、病棟薬剤業務・薬剤管理指導業務などがあります。また、感染対策（ICT）/抗菌薬適正使用支援（AST）、栄養管理（NST）、褥瘡対策などの病院横断的医療チームにも多く参画しています。

昨今、医薬品の製造工程における不備のほか、世界の様々な状況変動にも影響を受けた一時的な需要拡大などにより、医薬品の流通が滞る事象が継続的に発生しています。適切な医療提供体制を維持できるよう代替医薬品の確保に努めるとともに、代替治療の提案もしています。

また、卒前・卒後の研修受け入れも積極的に行っており、日本医療薬学会が定める 4 種類の専門薬剤師研修施設として認定を受けています。これは国立病院機構全体で 9 施設しかなく、関東信越地区においては当院のみです。

論文、総説

- 1) 新井 聡子、小井土 啓一、前嶋 愛子、篠田 康夫、込山 元清、松井 喜之、藤元 博行、エンザルタミドにより効果減弱の可能性が予測される薬剤の実臨床における併用状況に関する実態調査、癌と化学療法(49,5,557-562)、2022/5/1
- 2) 小井土 啓一、血液腫瘍治療薬、Evidence Update 2023(170-175)、2023/1/1

著書

- 1) 小井土 啓一
血液腫瘍治療薬、Evidence Update 2023 最新の薬物治療のエビデンスを付加的に利用する
(pp170-175)、2023/1、ISSN: 452521371X

学会・研究会発表

- 1) 吉村 航、佐藤 仁宣、宇留賀 仁史、石川 紗耶香、鈴木 奨梨、小井土 啓一、平井耕太郎、澤井 孝夫、ペムプロリズマブ＋アキシチニブ療法により甲状腺中毒症、甲状腺機能低下症、下垂体機構低下症を発症した1例、第14回日本がん薬剤学会（JSOPP）学術大会、2022/5/8
- 2) 宇留賀 仁史、小井土 啓一、山田 みなみ、吉村 航、堀田 恵美子、松田 悟郎、澤井 孝夫、地域保険薬局を対象とした外来がん薬物治療の研修会の評価～継続的かつ効果的な実施に向けて～、第14回日本がん薬剤学会（JSOPP）学術大会、2022/5/8
- 3) 大城 絢子、押賀 充則、木村 晴奈、一柳 玲子、小井土 啓一、三川 達也、新藤 学、電子カルテ医薬品マスタ修正ポリシー変更による一般名処方への誘導効果の検証、第76回国立病院総合医学会、2022/10/8
- 4) 小池 健志、長島 愛、池瀧 晶子、小井土 啓一、新藤 学、フォーミュラリ導入による外来院外処方動向の追跡調査、第76回国立病院総合医学会、2022/10/8
- 5) 滝澤 麻未、小井土 啓一、田中 亜希、三川 達也、新藤 学、経験年数が浅い若手薬剤師でもICT/AST活動を支えられる～横浜医療センターでの一例～、第76回国立病院総合医学会、2022/10/8
- 6) 押賀 充則、赤木 祐貴、吉川 至、小井土 啓一、三川 達也、新藤 学、横浜医療センターにおける退院時薬剤情報連携加算の適正算定に向けた職員アンケート、第76回国立病院総合医学会、2022/10/8
- 7) 宇留賀 仁史、小井土 啓一、山田 みなみ、吉村 航、堀田 恵美子、松田 悟郎、新藤 学、地域保険薬局を対象とした外来がん薬物治療研修会の評価（1）～継続して参加したいと思われるために～、第76回国立病院総合医学会、2022/10/9
- 8) 小井土 啓一、宇留賀 仁史、山田 みなみ、吉村 航、新藤 学、地域保険薬局を対象とした外来がん薬物治療研修会の評価（2）～研修会はどの程度知識向上に寄与できているか？～、第76回国立病院総合医学会、2022/10/9
- 9) 宇留賀 仁史、小井土 啓一、山田 みなみ、吉村 航、堀田 恵美子、松田 悟郎、新藤 学、薬連携強化のための地域保険薬局を対象とした外来がん薬物治療研修会の評価～継続的な実施に向けて～、日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2023、2023/3/5
- 10) 小井土 啓一、宇留賀 仁史、山田 みなみ、吉村 航、新藤 学、地域保険薬局を対象としたオンライン研修の評価～知識向上にどの程度寄与できているか？～、日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2023、2023/3/5

講演

- 1) 小井土 啓一、がん薬物療法概論①、日本臨床腫瘍薬学会、Essential Seminar Neo 2022 A-Program、2022/6/29-7/12 (OnDemand 配信)
- 2) 小井土 啓一、対人対物無制限の薬剤師になりたい～がん薬物療法の場合で考えてみる～、第 32 回日本医療薬学会年会 メディカルセミナー9、2022/9/24 (現地開催・Online LIVE 配信)
- 3) 新藤 学、フォーミュラリーについて、Pharmacist Web Seminar、2022/12/14 (Online LIVE 配信)
- 4) 小井土 啓一、逆転の発想でやってみる研究活動と学会発表、関信地区国立病院薬剤師会臨床研究推進研修会、2023/1/28 (Online LIVE 配信)
- 5) 小井土 啓一、やりたいことを踏まえてできることをやってみる薬薬連携、薬剤師のための連携セミナー in Sagami-hara、2023/2/9 (Online LIVE 配信)

座長

- 1) 小井土 啓一
抗がん薬治療のための調製手技と輸液選択
抗がん薬調製手技について学ぶ Webinar、2022/11/16 (Online LIVE 配信)

放射線科（技師）

学会・研究会発表

1) 斉藤 剛

施設紹介 当院 RT ワークフローにおける情報の管理

第 14 回神奈川医療情報システム研究会 放射線治療の情報管理

2022 年 7 月 9 日

2) 菅原 崇

放射線治療における CT 値電子密度変換テーブルについて

令和 4 年度神奈川県放射線技師会総会及び放射線治療班合同勉強会

2022 年 7 月 2 日

3) 福田 瑞希

当院における胸部血管 Black Blood 撮影の検討

第 76 回国立病院総合医学会

2022 年 10 月 8 日

その他

1) 斉藤 剛、世話人

第 15 回神奈川医療情報システム研究会 医療情報の標準化について(FHIR マシマシ)

2023 年 2 月 16 日

臨床検査科（技師）

横浜医療センター臨床検査科は診療支援の一部門として、「横浜市南西部地区地域中核病院の一員として強い使命感を持ち業務にあたる」をスローガンに掲げ、臨床検査関連の業務、治験、研究補助を実施しています。総勢 29 名にて検体検査、微生物検査、病理検査、輸血検査、生理機能検査を 24 時間体制で実施しております。

臨床からの指示にて実施する検査の結果は、診断、治療方針の決定、予後予測に重大な影響をもたらします。そのため、精確な結果を迅速に提供することが求められます。当検査科は、患者さんのために、品質マネジメントシステムの構築と進歩する検査技術への対応能力を維持するために、日々検査の質向上を目指し研鑽しております。



学会・研究会発表

- 1) 野中 照美、超音波検査が有用であった毛髪胃石症の 1 症例、第 47 日本超音波検査学会学術集会、2022/5/28
- 2) 中井 敦子、フィブロスキャン検査による肝線維化測定と血液データの比較検討、第 50 回国臨協関信支部学会、2022/9/3
- 3) 森 真衣子、当院における病理診断レポート見落とし防止策に関する病理検査室としての取り組み、第 50 回国臨協関信支部学会、2022/9/3
- 4) 良井 亜美、当院の COVID-19 PCR 検査の現状と課題、第 50 回国臨協関信支部学会、2022/9/3

集中管理部（ME）

集中管理部は、集中管理部長（循環器内科医師）のもと臨床工学技士 17 名と ME 室助手 2 名の計 20 名で構成されています。

主な業務内容は、生命維持管理装置である人工心肺装置（約 100 件/年）や補助循環装置（約 50 件/年）、血液浄化装置（約 1000 件/年）、その他心臓カテーテル治療・検査（約 1800 件/年）の際に使用される装置等の操作監視を行う臨床技術提供業務と、人工呼吸器（約 500 件/年）やその他汎用性の高い医療機器（生体情報モニタ・輸液ポンプ等）を安全かつ適切な使用ができるように管理運用を行う機器管理業務です。そのため、日頃から医師や看護師その他の医療関係職種と緻密なチーム連携を図りながら、高度な医療機器の操作・保守管理を行っています。

今後、更なる高度化・複雑化した医療機器の増加が見込まれます。引き続き、みなさまからの要望と期待に応え、より多くの医療機器の安全性確保と有効性維持が図れるよう、業務体制の強化に努めていきます。

パネリスト

1) 小宮 崇徳

Acute Blood Purification Meeting 第 2 弾「TR-2020」

主催：東レ・メディカル株式会社

2023 年 3 月 9 日

開催形式：オンライン LIVE 配信

演者

1) 村上 浩哉

第二回 人工心肺装置・回路セミナー in 品川～安全への取組み 各施設どうしているの？～」

主催：リヴァノヴァ株式会社 株式会社 JMS

2022 年 8 月 27 日

開催地：東京

栄養管理室

現在、栄養管理室は管理栄養士 10 名と調理師 5 名・調理員 1 名、業務委託職員で構成されています。

患者個々の病態に即した安全で美味しい食事の提供と、病態と生活習慣を考慮した栄養食事指導、多職種と協働する中で最適な栄養療法を提案する各チーム医療活動等を通して、患者さんに必要な医療に貢献するとともに、信頼と満足を得られるよう日々奮闘しております。

入退院調整センターに於いては、周術期に於ける管理栄養士介入の対象者を原則として全患者さんに拡大し、入院、手術に備えて、直接栄養に関する問診、食物アレルギーの有無、嚥下機能低下の確認、栄養状態の評価、入院中の食事の説明、周術期の栄養管理等について栄養指導を行い、患者さんに安心して手術に臨んでいただけるよう努めております。

また、2023 年 7 月より栄養相談室を 1 階外来 A-13 から、2 階血液浄化センター前へ移転しました。これによって、相談室は以前の倍の広さになり、快適&スムーズに患者さんをお待たせせずに栄養指導が実施できております。



論文、総説

- 1) 横田 あみ、先生のはなまるメニュー、mealtime (61 号,p50)

学会・研究会発表

- 1) 横田 あみ、当院における適正なペースト粥提供への取り組み、第 24 回関東信越国立病院管理栄養士協議会学会、2022/6/18

リハビリテーション

当院のリハビリテーション科は急性期病院のリハビリテーションの役割として入院患者様を主な対象とし、早期の介入に努め実施しております。

主な対象疾患は脳卒中などの中枢神経疾患や、交通外傷、運動器疾患の手術後の患者様、呼吸器疾患、心臓疾患の患者様が中心ですが、最近では外科の手術を予定されている患者様へのリハビリテーションの依頼も増えております。

そのほか栄養サポートチームや認知症ケアチーム、呼吸ケアチーム、褥瘡対策チームなど各チーム医療の一員としても活動しております。

また院内で行われている糖尿病教室、2019 年からは産婦人科の助産師と共同で生後 3 か月～1 歳の親子を対象にした簡単な体操や褥婦に対して骨盤底筋群の筋力訓練などを行う『おやこ体操』というクラスも実施しております。

スタッフ数はリハビリテーション科医長 1 名(整形外科部長兼任)、理学療法士 11 名、作業療法士 5 名、言語聴覚士 3 名の合計 20 名で運営しております。

リハビリテーション科の施設基準

心大血管リハビリテーションI、脳血管疾患等リハビリテーションI、廃用症候群リハビリテーションI、運動器リハビリテーション料I、呼吸器リハビリテーション料I

学会・研究会発表

- 1) 嶋田 泰大、脳卒中のリスク管理／令和 4 年度 1 年目研修、国立病院理学療法士協議会関東信越部会、2022/6/16
- 2) 内田 史和、COVID19 重症肺炎症例に対するリハビリテーションの報告、第 76 回国立病院総合医学会、2022/10/7
- 3) 宮田 知昌、頭部外傷に対する急性期・慢性期医療連携、Y-CIRCLE、2022/12/7

看護部

論文、総説

- 1) 牧野 麻希子、「外来で行うフットケア」の意義と効果（74 巻 15 号,60-65）、2022/11/20
- 2) 牧野 麻希子、新 はじめよう！フットケア(172-177)、2022/6/30

学会・研究会発表

- 1) 平菜 希子、病院前救護、初期診療、集中管理でシームレスに関するドクターカー看護師～成功体験がやりがいになる～、第 25 回日本臨床救急医学会総会・学術集会、2022/5/25～5/27
- 2) 堀田 恵美子、経口抗がん剤で治療をうける患者への関りを通した、病院看護師と訪問看護師との連携を今後の課題、第 4 回日本在宅医療連合学会大会、2022/7/23～7/24
- 3) 牧野 麻希子、ユニバーサlmasking対策下でのサージカルマスクによる医療関係機器圧迫創傷予防について、第 76 回国立病院総合医学会、2022/10/7～10/8
- 4) 牧野 麻希子、創傷治療促進に関連した特定行為の一例、第 76 回国立病院総合医学会、2022/10/7～10/8
- 5) 中宿 佳代子、コロナ禍の勉強会開催方法を工夫して、第 76 回国立病院総合医学会、2022/10/7～10/8
- 6) 竹谷 杏菜、脳腫瘍（迷走神経鞘腫）摘出術後、高度嚥下障害を生じた患者への完全経口摂取へ向けた取り組み、第 76 回国立病院総合医学会、2022/10/7～10/8
- 7) 金井 久人、経皮的冠動脈インターベンション時における腰背部温罨法が自律神経系機能へ及ぼす影響、第 76 回国立病院総合医学会、2022/10/7～10/8
- 8) 廣田 尚美、当院の緩和ケア提供体制の現状と今後の課題、第 76 回国立病院総合医学会、2022/10/7～10/8
- 9) 杉澤 那津子、家庭環境の複雑化によりアドヒアランス不良となった喘息児と父親への地域支援、第 38 回日本小児臨床アレルギー学会、2022/7/2
- 10) 甲高 成美、総合病院精神科病棟における摂食障害患者に関わる看護師が捉える多職種連携の実際と課題、第 20 回アディクション看護学会学術集会、2022/1/27

看護学校

学会・研究会発表

- 1) 大澤 広美、オンライン実習における学習効果 ～アンケート結果より～、第 76 回国立病院総合医学会、2022/10/17
- 2) 設楽 香織、看護学生の臨地実習におけるインシデントと安全教育に関する文献検討、第 20 回国立病院看護研究学会、2022/12/10

相談支援センター（MSW）

医療ソーシャルワーカーは、6名在籍しており主に「退院に関する相談」と「入院中の療養相談」「経済的な相談」「社会保障に関する相談」に対応させて頂いており、「退院に関する相談」については、在宅支援を退院調整看護師、転院支援は、医療ソーシャルワーカーが主に対応しております。なお、医療ソーシャルワーカーは「診療科担当制」を取っており、常に医師、看護師、コメディカルと連携を取りながら調整を行います。

具体的な支援としては、治療段階に合わせた病院・施設等で療養できるように、早期に患者さんやご家族に関わり、回復期リハビリテーション病棟・療養病棟・介護老人保健施設・有料老人ホーム等にご紹介・ご案内しています。

業績

なし

事務部

座長

- 1) 演者等 : 渡邊 博幸
所属 : 事務部企画課
役職 : 企画課長
演題名 : ポスターセッション[P1-2-87] ポスター87
「事務 増収関連」
学会等 : 国立病院総合医学会
発表日 : 2022 年 10 月 7 日

- 2) 演者等 : 斉藤 貴之
所属 : 事務部企画課
役職 : 医事室長
演題名 : パネルディスカッション 12[PD12]
「災害時の情報共有とインフォデミック」
学会等 : 国立病院総合医学会
発表日 : 2022 年 10 月 8 日

あとがき



今年度から臨床研究部長を拝命し、あとがきを書かせていただくことになりました。

以前から年報・臨床研究業績集には携わっていましたが、発行の意味についていつも考えさせられていました。病院としてこの冊子は必要とされているのだろうか？など悩みながら編集作業を行っていた記憶があります。

臨床と研究、ちょっと立ち位置は違うかもしれませんが、研究は「普段の仕事には意味のないもの」というわけではありません。仕事を日々して「変わったな」と気づかされる変化のほとんどは臨床研究の結果から生まれています。また、本当に良い臨床研究は日常臨床から出るクリニカルクエストから生まれます。例えば最近では日本におけるコロナワクチンの導入の際、NHO がすばやく臨床研究を計画したおかげで安全性などの評価ができ、ワクチン供給をしてよいかどうかの判断が早まりました。

つまり臨床と研究は二律背反する要素ではなく、補完しあうものだとして理解してもらえるとよいかもしれません。自分たちで行っている研究でも上記のように普段の診療活動では見えてこないが、臨床研究を行うことで見えてくる風景は確かにあります。結果としてそれが日常診療の質やモチベーションを高めることにつながるかもしれません。

年報の意義ですがまずは病院としての横の広がりを確認できること。自分の部門で臨床研究を頑張っている他の部門がどんなことをやっているかはわからないと思います。臨床研究業績集を眺めることで、他の部門の頑張りを知ることができ、病院全体の臨床研究に向けた活力を感じることができるかもしれません。

2 番目の意義としては振り返りができること。臨床研究業績集を保存していれば数年後異動してからもご自身が働いていた時期の部門の研究業績を簡単に確認することができます。ご自身の業績をまとめる際にも役立つことは間違いありません。

また、組織としては「施設の概況」を見直すことで部門や病院のこれまでの流れや進歩を長期的・経時的に把握することができます。たとえば今回の年報をご覧になると、新型コロナウイルスの流行で呻吟しながらも積み上げてきた各部門の頑張りが伝わってくるかもしれません。

この年報・臨床研究業績集が何らかの形でみなさまのお役に立てば嬉しい限りです。

臨床研究部長 井畑 淳

令和4年度 年報・臨床業績集

令和6年3月発行

発行 独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター
〒245-8575 横浜市戸塚区原宿3-60-2
T E L 045-851-2621
F A X 045-851-3902
Homepage : <https://yokohama.hosp.go.jp/>

編集 業績集委員会
